

「第 2 次丹波市環境基本計画」策定のための
市民アンケート調査結果

◆アンケート実施概要

実施時期	平成 28 年 11 月 11 日から 11 月 25 日まで
実施方法	郵送配布・郵送回収
配布数	1,000
回収数・回収率	437 (43.7%) 平成 28 年 11 月 30 日まで

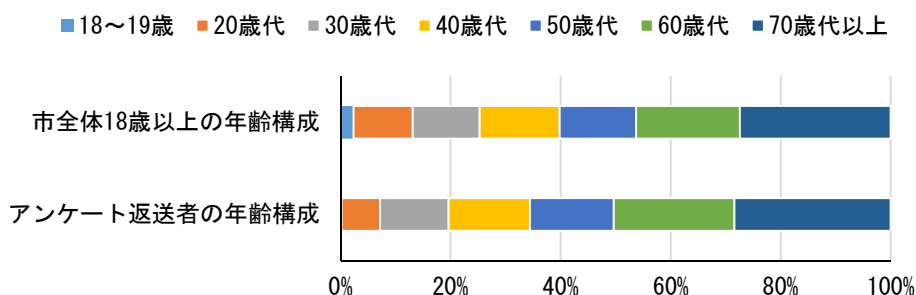
丹波市

平成 29 年 1 月

I 回答者の属性

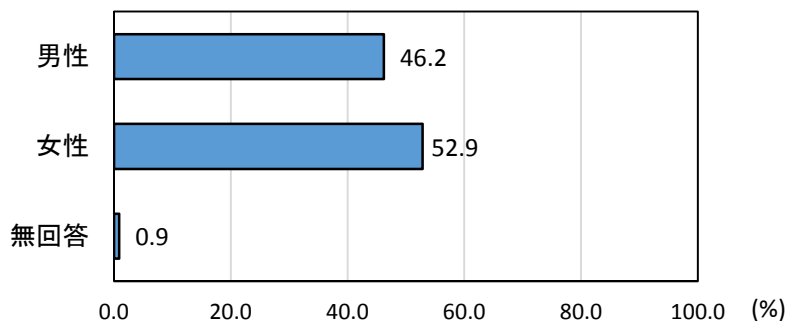
1 概況

- 市内の年齢構成を概ね反映した回答状況となっており、回答者の49.9%が60歳代以上であった。
- 市内での居住は、30年以上が72.1%を占めており、市内を良く知る方からの回答となっている。

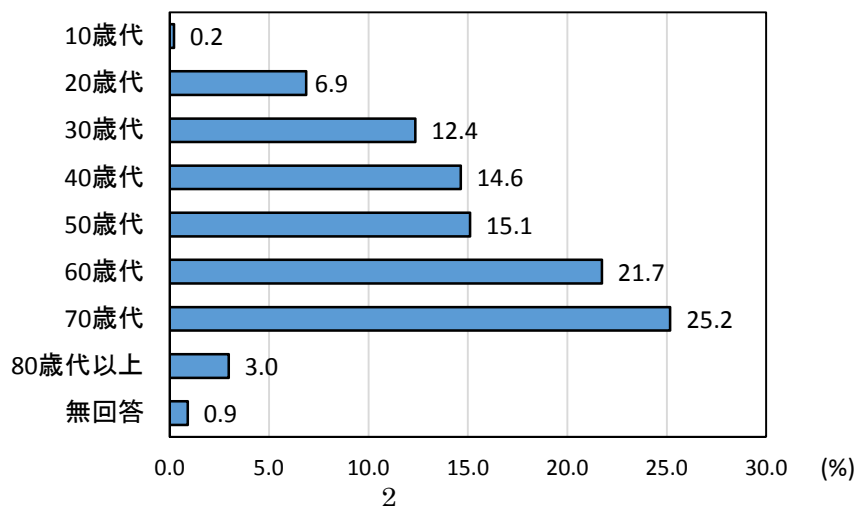


2 設問別の回答状況

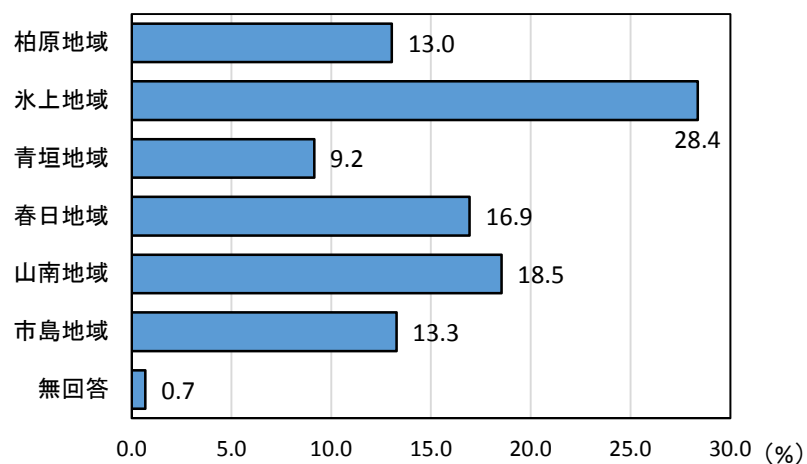
問1 あなたの性別を教えてください。



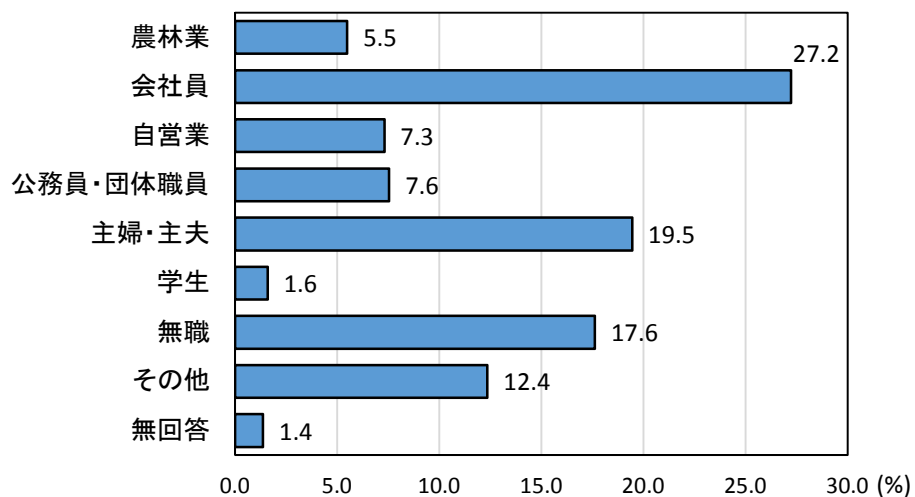
問2 あなたの年齢を教えてください。



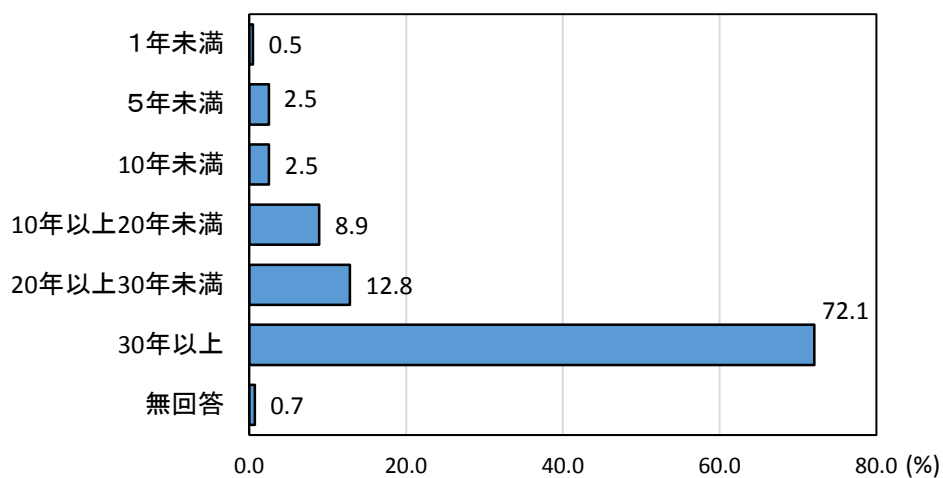
問3 あなたの住まいの地域を教えてください。



問4 あなたのご職業を教えてください。



問5 あなたは、丹波市に何年お住まいですか。



II 地域の自然環境、生活環境について

1 概況

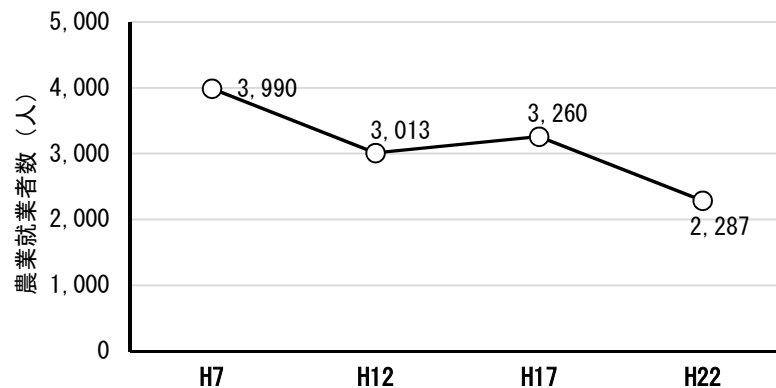
- 家の周辺の自然環境に満足（満足+どちらかといえば満足）している割合は、74.4%となっている。そのうち、75.1%は、「身近なところに自然とふれあえる里山や河川などがある」と答え、49.8%は、「農地や山林が豊かである」と答えている。

家の周辺の自然環境に満足（満足+どちらかといえば満足）している割合を地域別にみると、柏原地域が86.0%と最も高く、青垣地域が62.5%と最も低かった。

- 家の周辺の自然環境に満足していない（あまり満足していない+全く満足していない）割合は、24.7%となっている。そのうち、70.4%は、「野生生物による農作物などの被害が増えた」と答え、43.5%は、「農地や山林の荒廃が進んだ」と答えている。「開発により身近な自然が減少した」と答えた割合は14.8%であった。これらから、自然環境そのものの減少よりも、自然環境の質的な変化が実感されていることがうかがえる。

農業従事者数は、平成7年以降下降しており、農地等の手入れが十分に行われなくなっていることの表れである可能性がある。今後の自然環境の維持向上のためには、農業を支える人づくりも重要であると考えられる。

図 1-1 農業就業者数の推移(国勢調査結果より)



※「就業者」とは、調査週間中、賃金、給料、諸手当、営業収益、手数料、内職収入など収入（現物収入を含む。）を伴う仕事を少しでもした人。個人経営の農業や工場・店の仕事などの手伝いをした場合は、無給であっても、収入を伴う仕事をしたこととして、就業者に含まれる。

- 生活環境では、「空気のきれいさ」、「静けさ」について、それぞれ80%以上が満足（満足+どちらかといえば満足）と答えている。

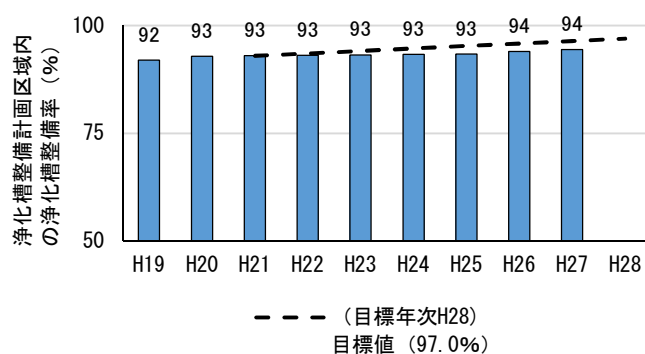
それぞれの結果（満足+どちらかといえば満足の割合）を地域別にみると、「空気のきれいさ」は青垣地域が90.0%最も高く、山南地域が67.9%と最も低かった。「静けさ」は青垣地域が92.5%と最も高く、春日地域が75.7%と最も低かった

- 生活環境に満足していない（あまり満足していない+全く満足していない）理由の上位は、以下表のとおりであり、ごみの不法投棄、野焼き、空地・空き家、遊休農地の対策を検討する必要がある。

	満足していない割合	理由 (第1位)	理由 (第2位)	理由 (第3位)
水路、河川など水のきれいさについて	24.8%	河川敷へのごみの不法投棄 (47.2%)	河川改修、水路整備による水辺の生き物減少 (44.4%)	生活排水による汚れや悪臭 (21.3%)
空気のきれいさについて	16.1%	野焼きによる煙、悪臭 (52.9%)	自動車の排気ガス (22.9%) 工場、事業所からの煙、悪臭 (22.9%)	
静けさについて	16.9%	交通騒音 (55.4%)	ピアノ演奏など近隣騒音 (5.4%)	工場などの騒音 (2.7%)
清潔さについて	23.8%	適正管理されていない空地、空家がある (42.3%) ペットの糞が道路に落ちている (42.3%)		空き缶などのポイ捨ての多さ (39.4%)
景観について	23.6%	管理されていない遊休農地の増加 (43.7%)	沿道、公園の緑や花の手入れの不行き届き (30.1%)	沿道、公園の緑や花が少ない (24.3%)

※その他を除く

- なお、「水路、河川など水のきれいさ」に関して、浄化槽整備区域内の浄化槽整備率は平成27年度現在で94%という高い割合であり、下水道処理水についても環境基準を満たしていることから、不法投棄防止のための啓発の実施や、地域の取り組む河川愛護活動などの支援も重要と考えられる。

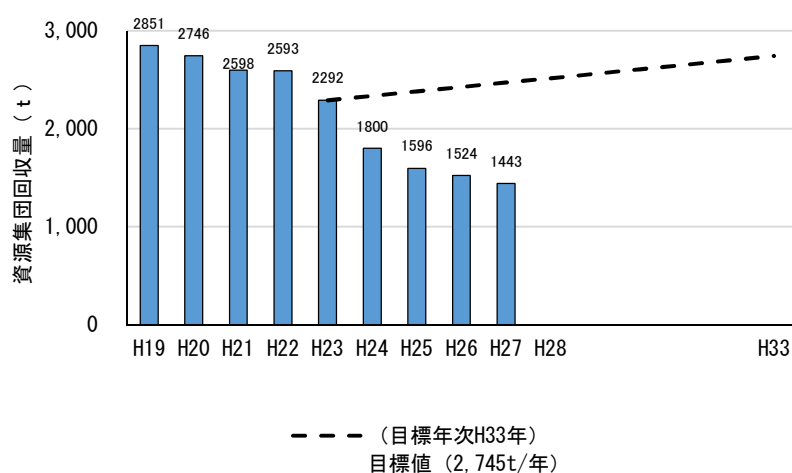
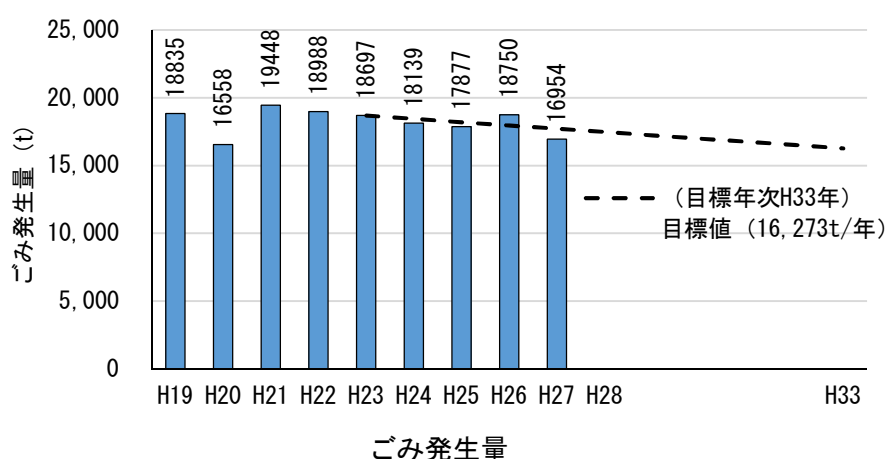


浄化槽整備計画区域内の浄化槽整備率

- ごみの分別、リサイクル、減量化についての関心については、「関心がある」が33.9%、「ある程度関心がある」が47.4%という結果となっており、市民のごみ問題に対する関心の高さがうかがえる。年齢別にみると、「関心がある」と答えた20歳代から40歳代は10%～30%、50歳代から70歳代は30%～45%、80歳代以上は60%以上となっており、年齢が高くなると関心が高くなる傾向がみられた。

どのような内容に関心があるかの問いには76.3%が「リサイクル」と答え、「ごみの減量」(39.4%)、「生ごみのたい肥化」(29.6%)などが次いでいる。

ごみの分別、リサイクル、減量化についての関心を裏付けるように、ごみ発生量は減少傾向にあるが、平成33年度の目標値に向けて更に取り組みを推進する必要がある。今後は、リサイクルだけではなく、3R、5Rに向けた啓発などの取り組みが重要と考えられる。

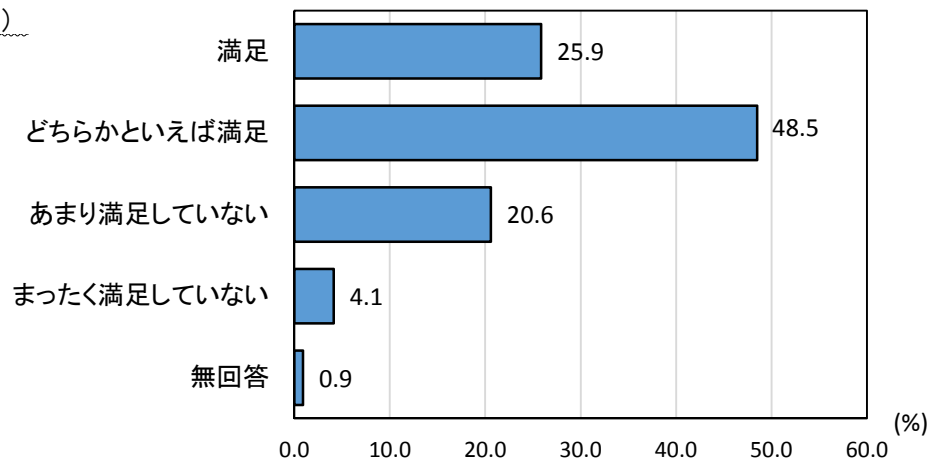


資源回収量

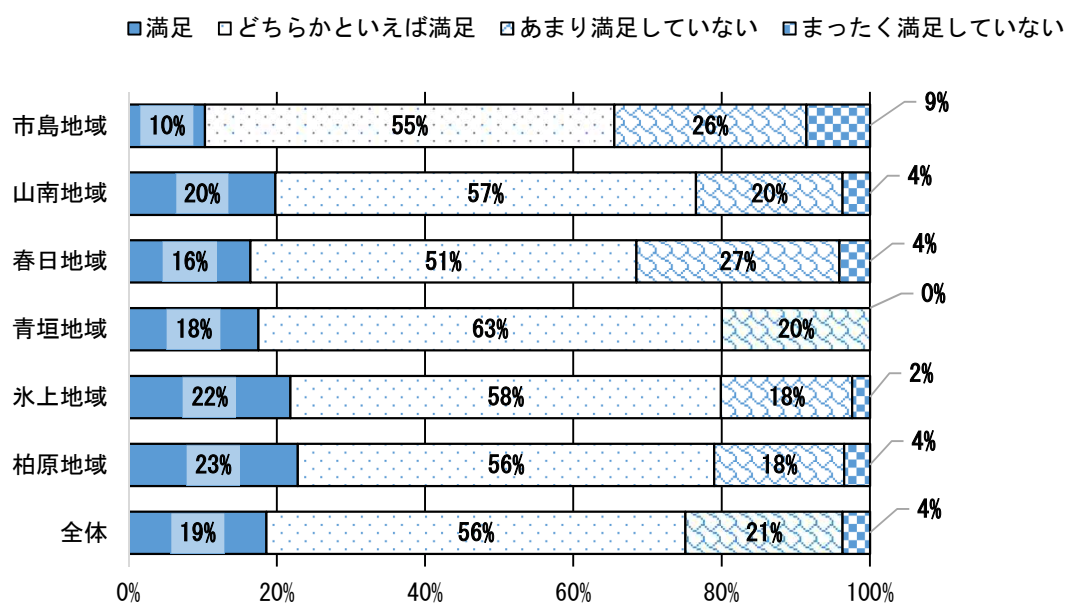
2 問別の回答状況

問6 あなたのお家の周辺の自然環境について、どのくらい満足していますか。

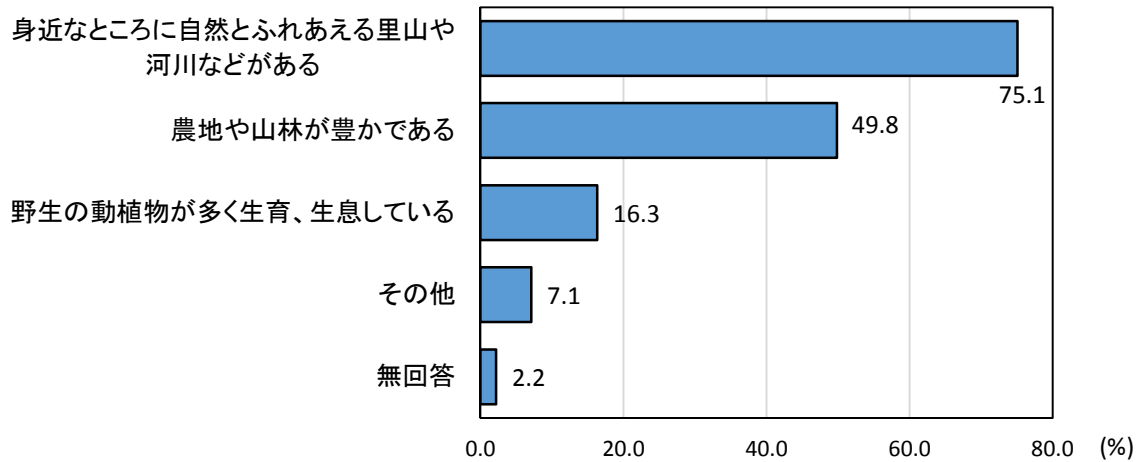
(○は1つ)



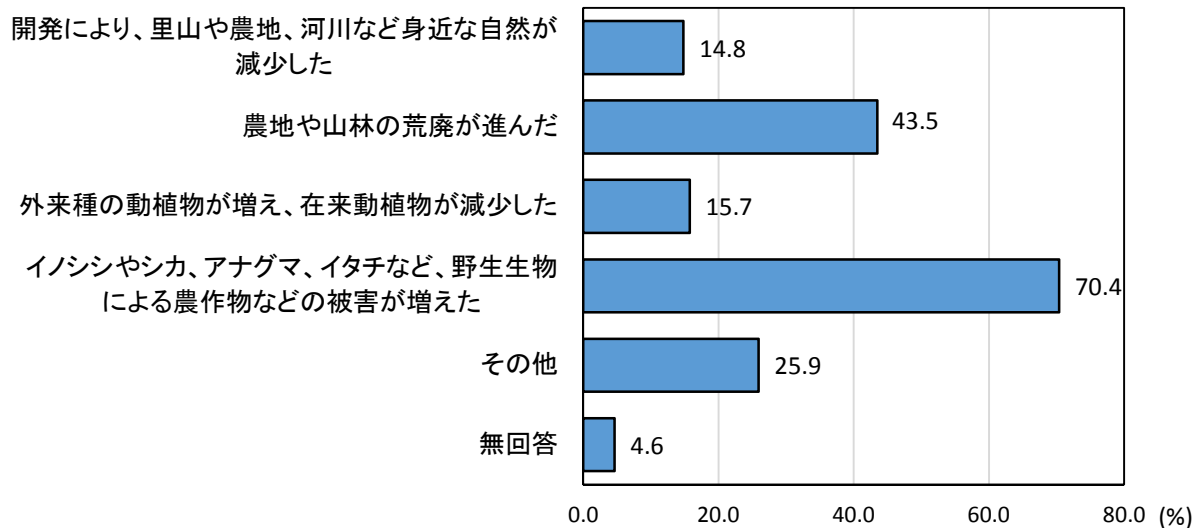
○ 問6を地域別にみた結果



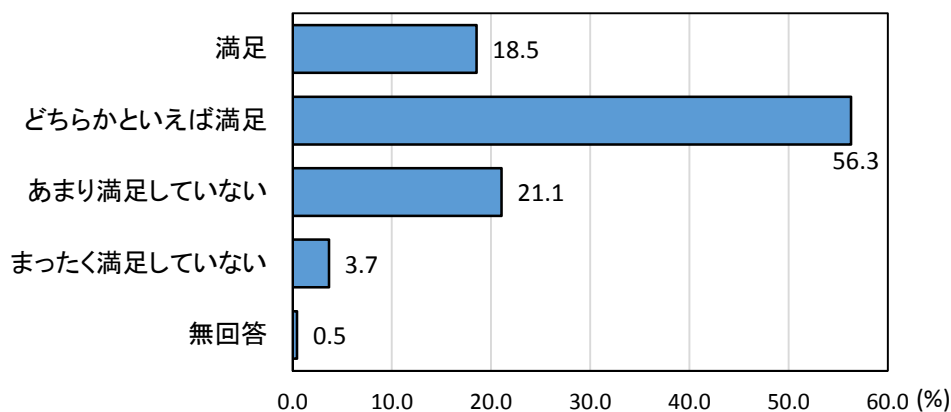
問7-1 問6で1、2とお答えになった方に質問します。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



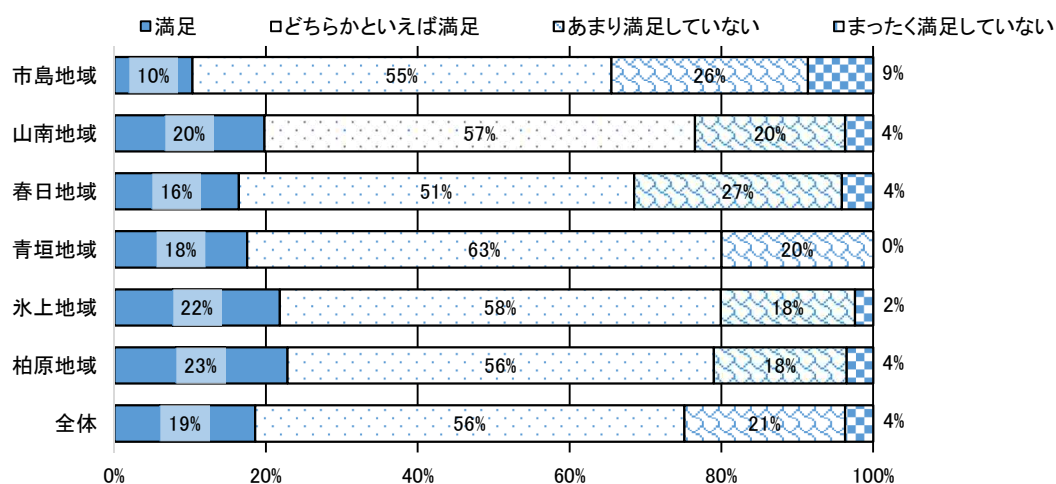
問7-2 問6で3、4とお答えになった方に質問します。
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



問8 あなたは、お家の周辺の水路や河川などの水のきれいさについて、どのくらい満足していますか。(〇は1つ)

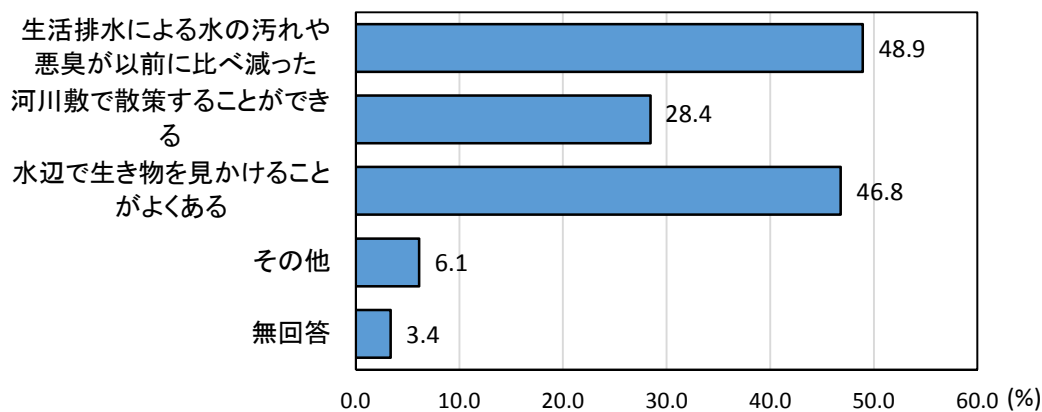


○ 問8を地域別にみた結果



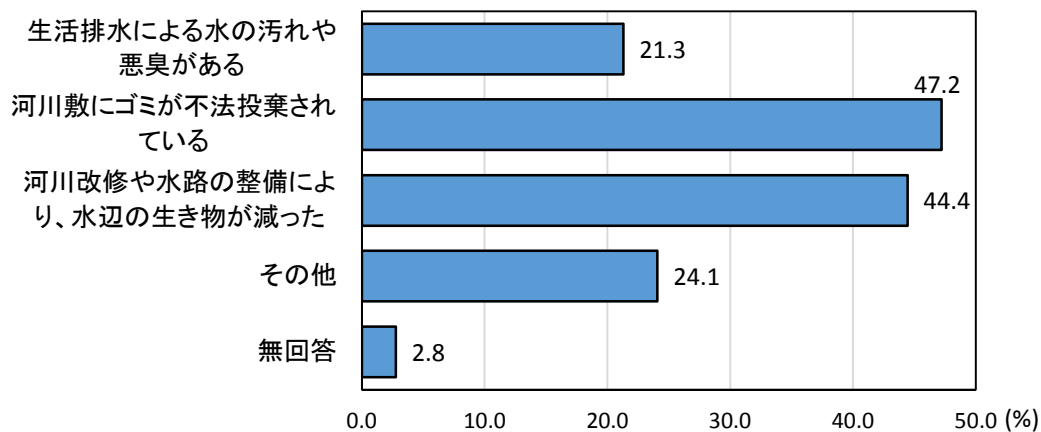
問9-1 問8で1、2とお答えになった方に質問します。

その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



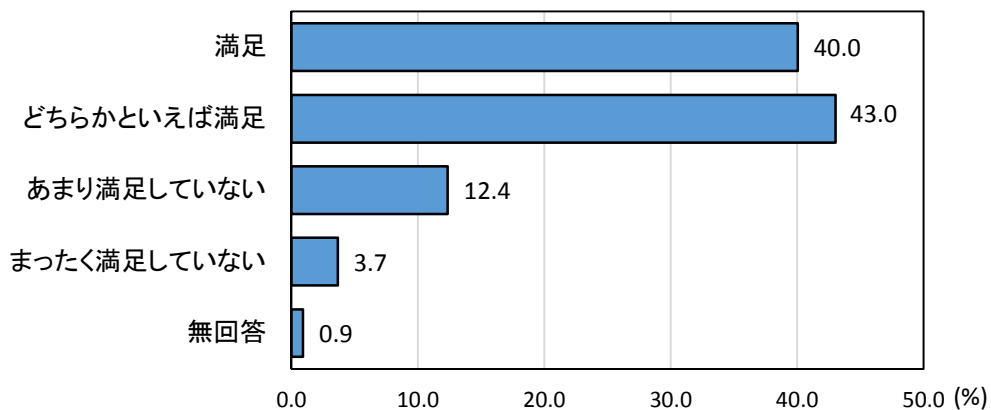
問 9-2 問 8 で 3、4 とお答えになった方に質問します。

その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

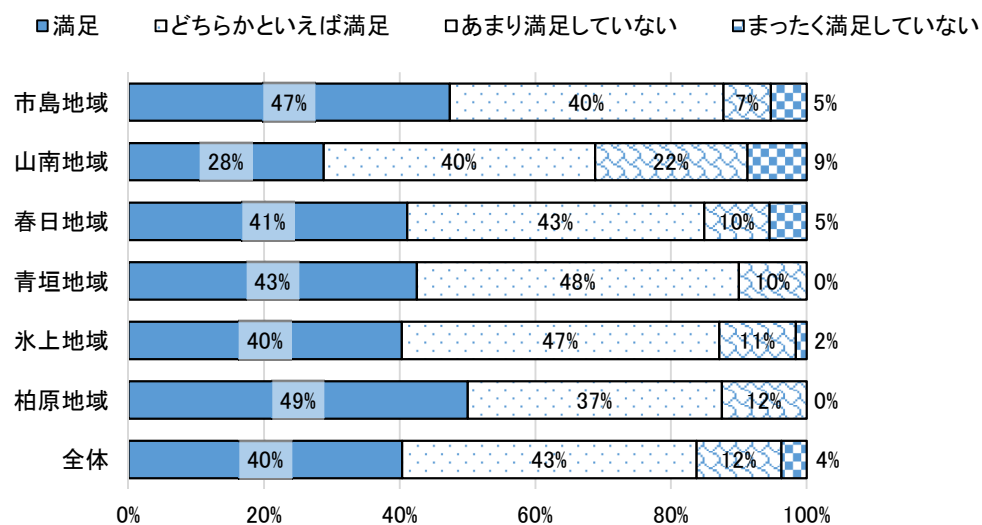


問10 あなたのお家の周辺の空気のきれいさについて、どのくらい満足していますか。

(〇は1つ)

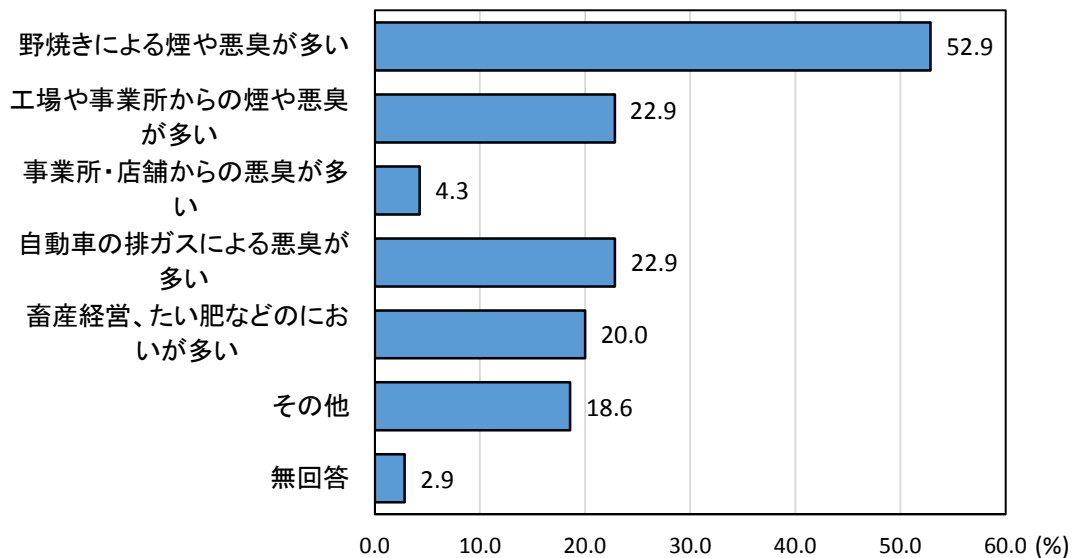


○ 問10を地域別にみた結果

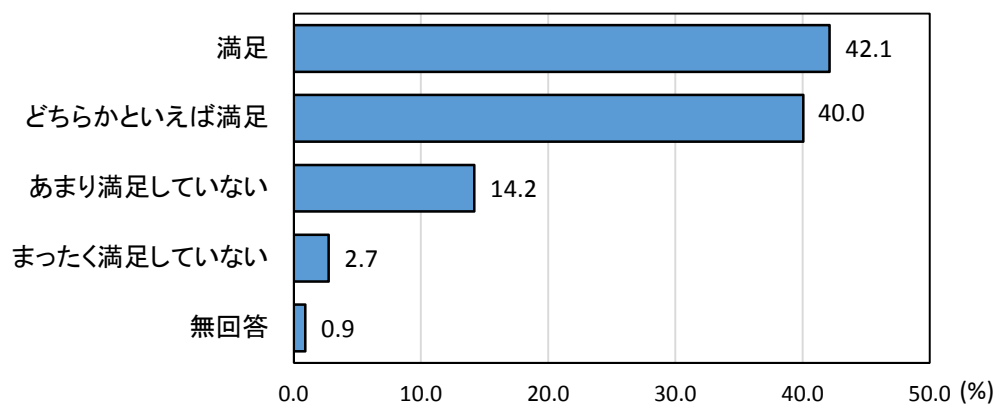


問11 問10で3、4とお答えになった方に質問します。

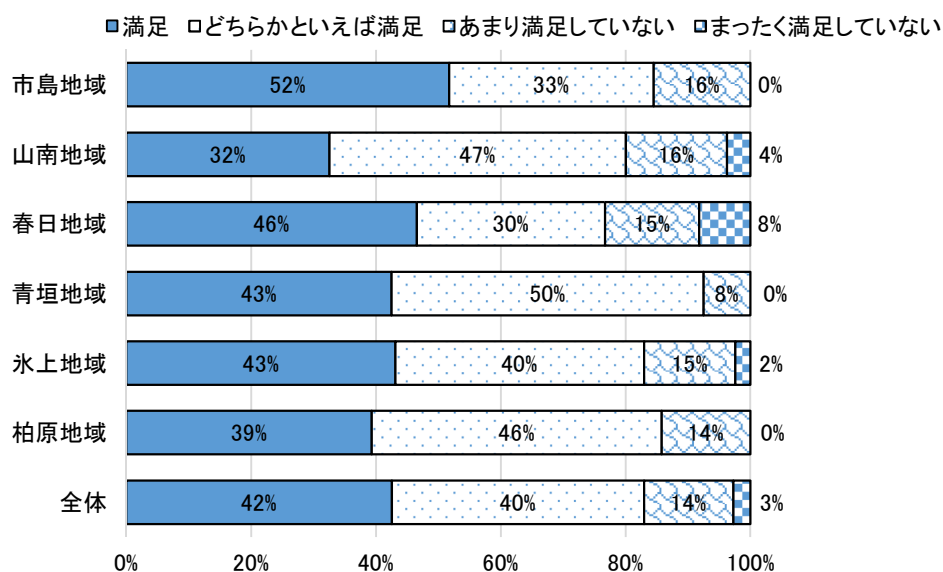
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



問12 あなたのお家の周辺の静けさについて、どのくらい満足していますか。(〇は1つ)

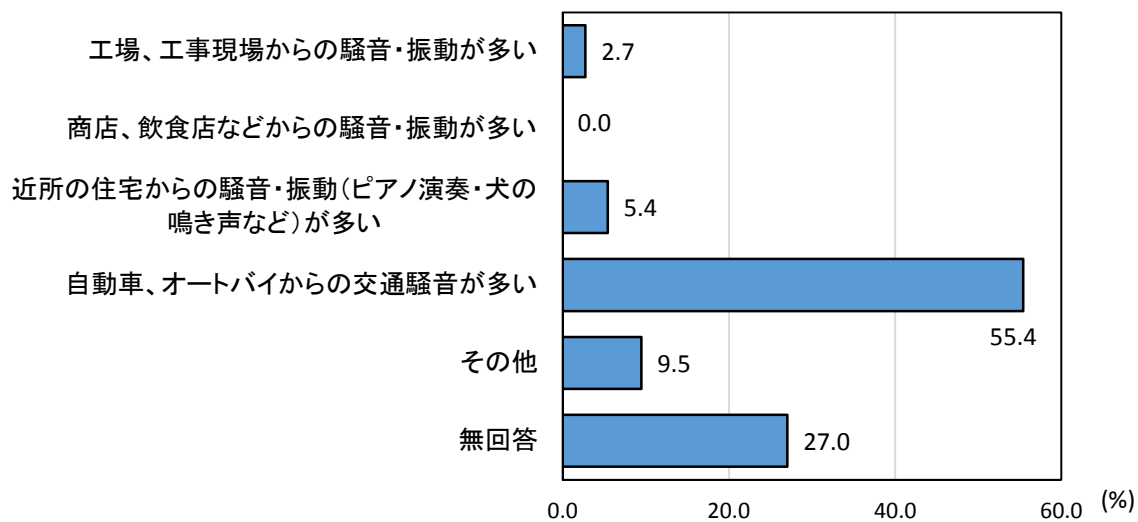


○ 問12を地域別にみた結果

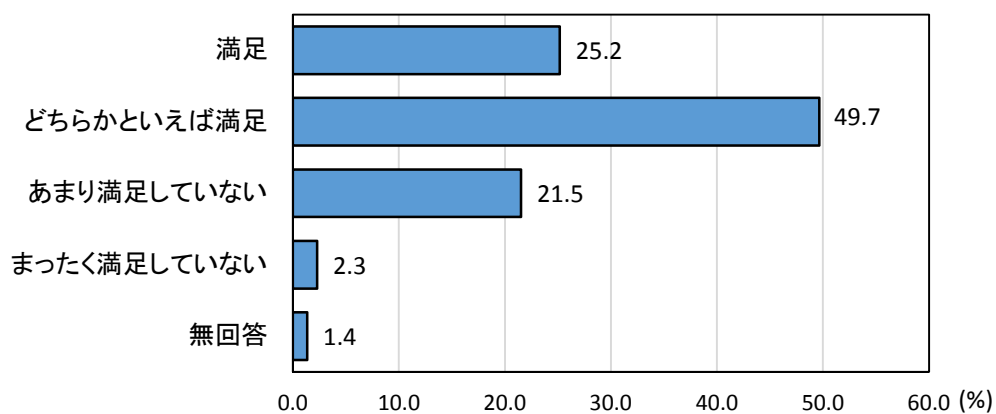


問13 問12で3、4とお答えになった方に質問します。

その理由は何ですか。(○はいくつでも)

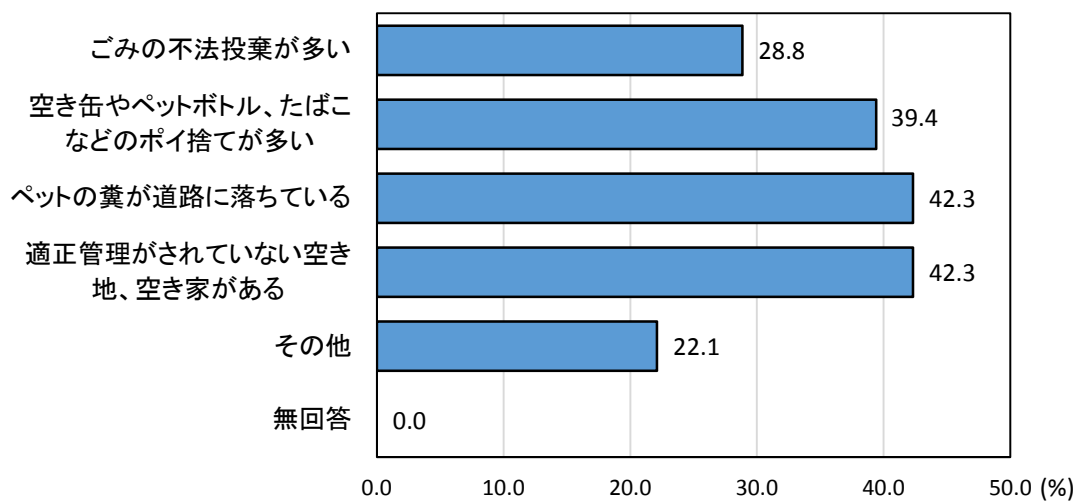


問14 あなたのお家の周辺の清潔さについて、どのくらい満足していますか。(○は1つ)

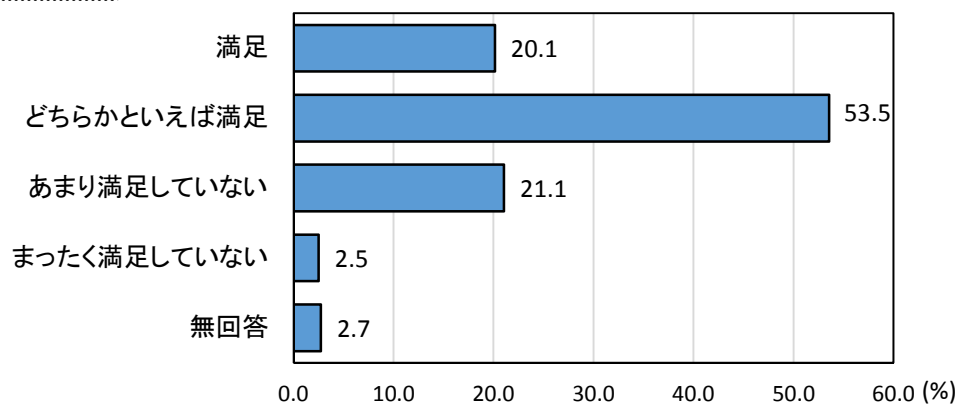


問15 問14で3、4とお答えになった方に質問します。

その理由は何ですか。(○はいくつでも)

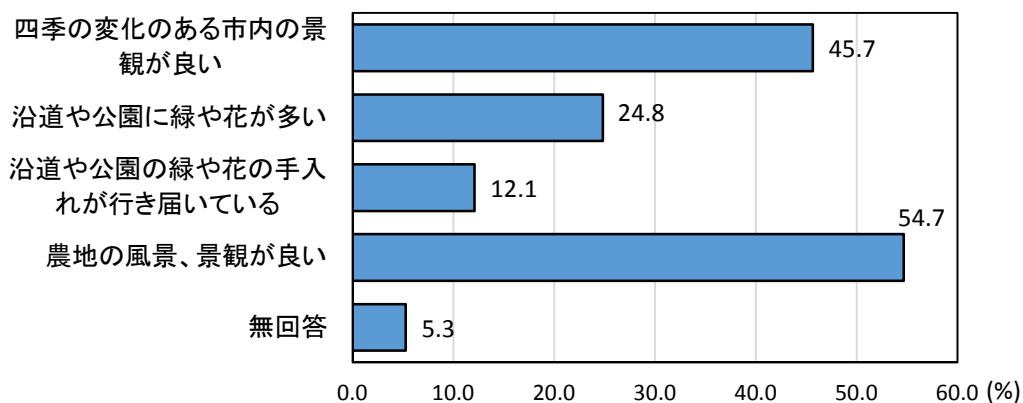


問16 あなたのお家の周辺の緑や公園、景観について、どのくらい満足していますか。
(〇は1つ)



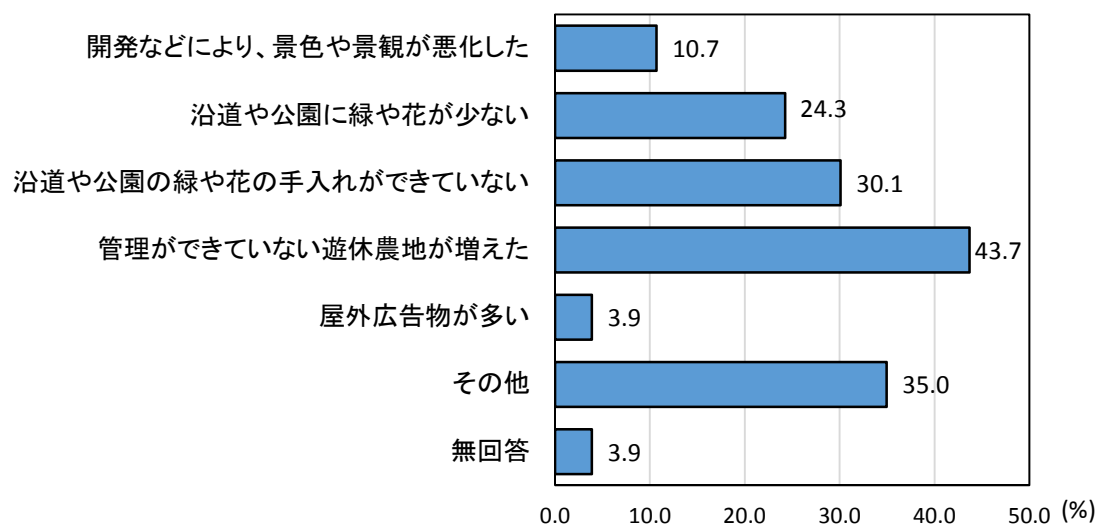
問17-1 問16で1、2とお答えになった方に質問します。

その理由は何ですか。(〇はいくつでも)

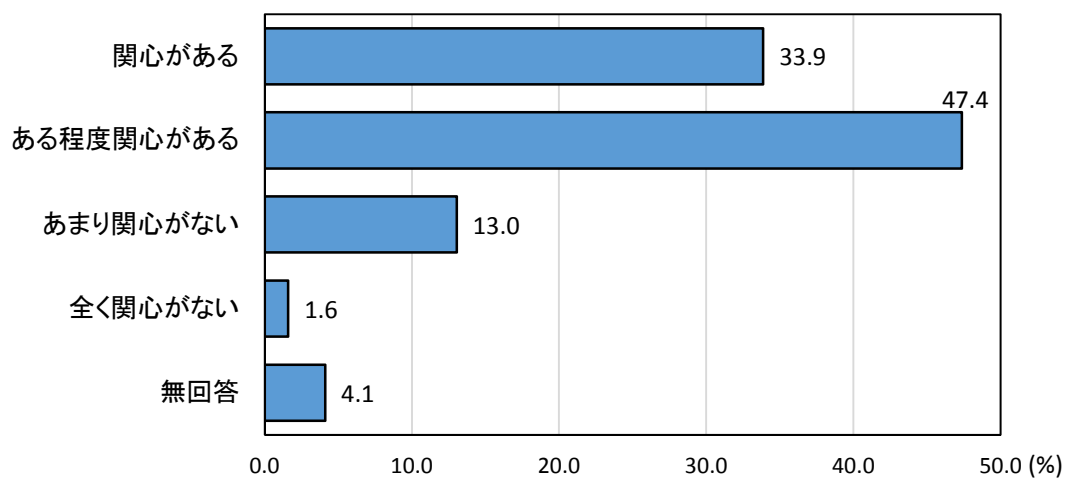


問17-2 問16で3、4とお答えになった方に質問します。

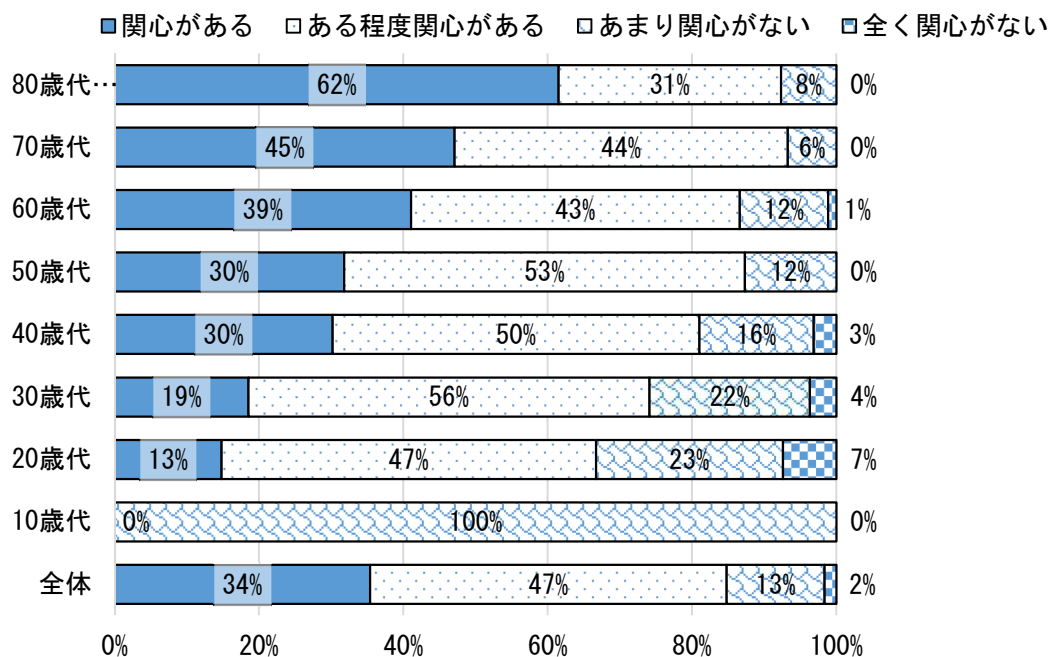
その理由は何ですか。(〇はいくつでも)



問18 あなたはごみの分別・リサイクル、ごみの減量化について関心がありますか。(〇は1つ)

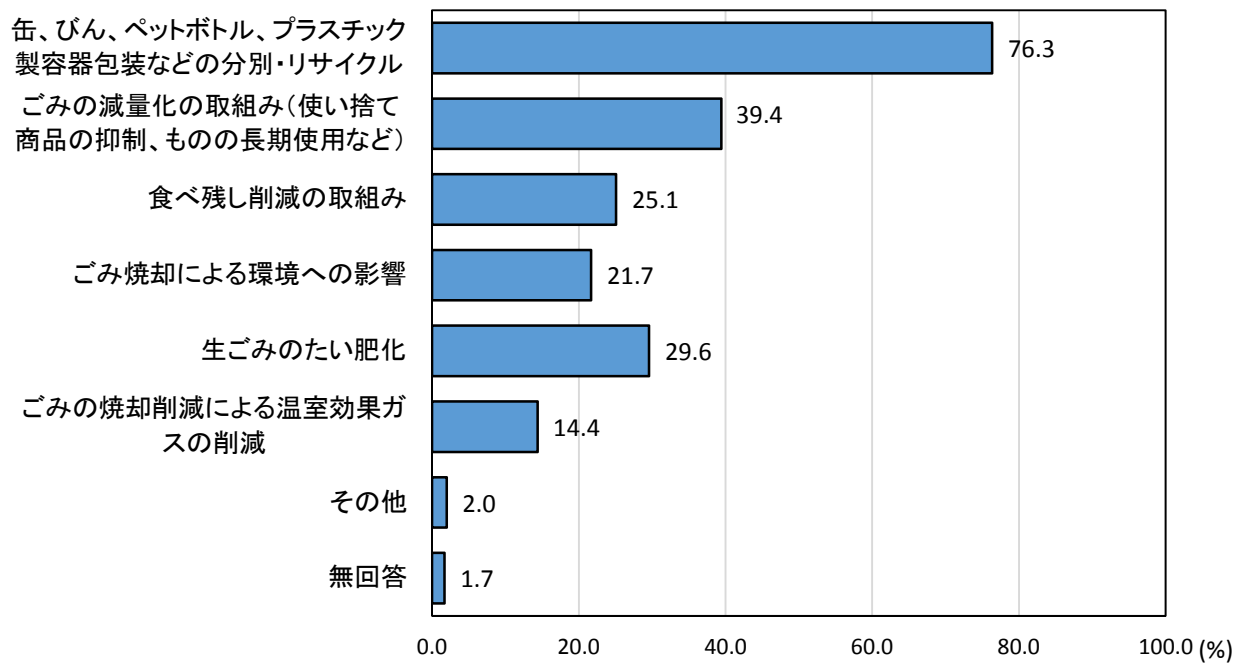


○ 問18を年齢別にみた結果



問19 問18で1、2とお答えになった方に質問します。

どのような内容に関心がありますか。(〇はいくつでも)



Ⅲ 森林・農地について

1 概要

- 森林に期待する役割についての質問に対して、63.8%が「空気の浄化」と答え、次いで、「水源涵養」、「地球温暖化防止」、「防災・減災機能」がそれぞれ49.7%となっている。一方で、「期待しない」は3.0%にとどまり、森林の多面的な機能に期待されていることが伺える。

- 買い物をするとときに丹波市産の農産物を購入しますかとの問いに対して、「購入する」が38.4%に達し、地場産農作物に対する関心の高さがうかがえる。

また、年齢別に「購入する」と答えた割合をみると、20歳代から30歳代は20%～30%、40歳代から50歳代は35%～45%、70歳代から80歳代以上では50%以上と年齢が高くなると高くなる傾向がみられた。

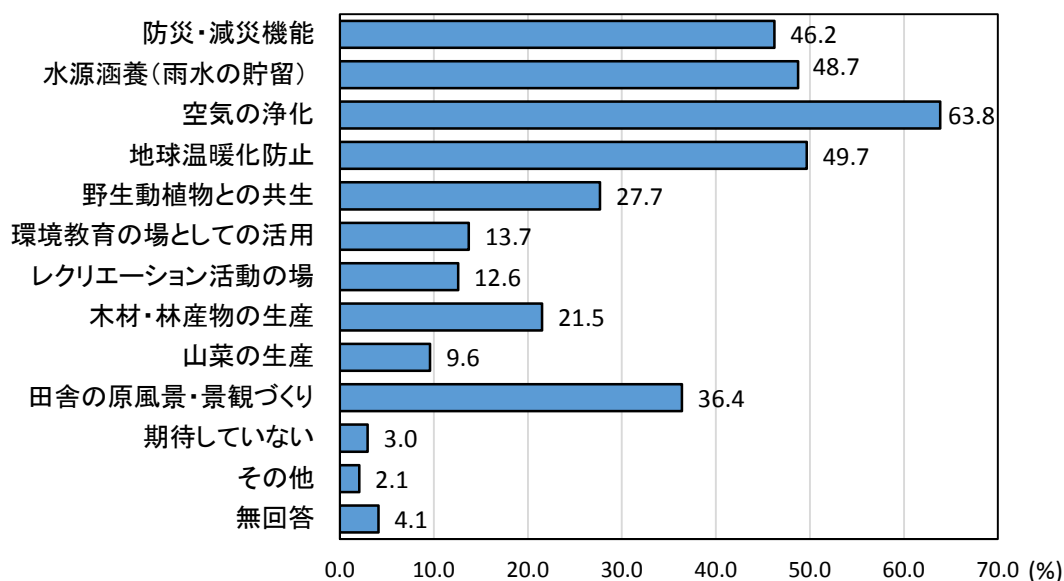
- 環境に配慮して作られた無農薬や有機栽培の農産物を選んで購入しますかとの問いに対しては45.1%が「購入する」と答えており、安全な農作物への関心が高いことがうかがえる。

また、年齢別に「購入する」と答えた割合をみると、20歳代から40歳代は30%～40%、50歳代から70歳代は40%～60%、80歳代以上は75%と年齢が高くなると高くなる傾向がみられた。

今後、持続的に農業を産業として維持し、自然環境を保全するためには、有機栽培等の付加価値の高い商品づくりが有効との結果を示すものといえる。但し、若い世代では地場産野菜や有機栽培等に関心の低い傾向があり、今後の啓発等が必要と考えられる。

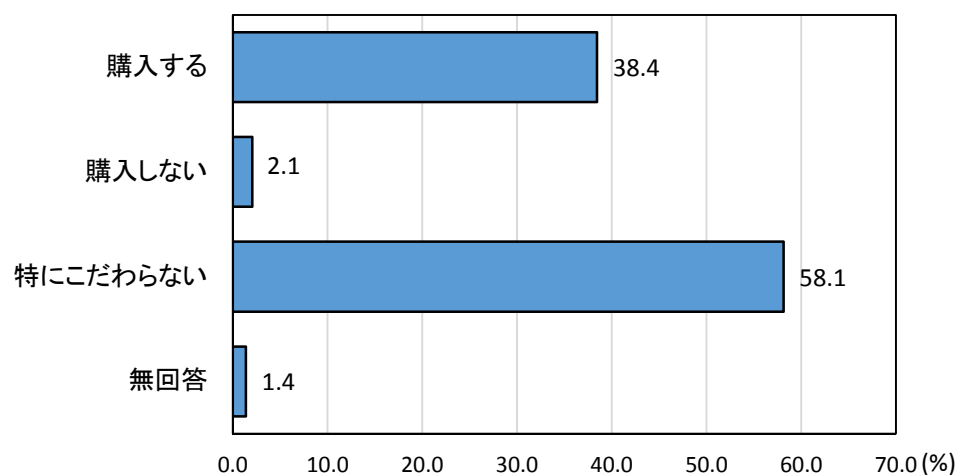
2 設問別の回答状況

問20 あなたが森林に期待する役割は何ですか。(〇はいくつでも)

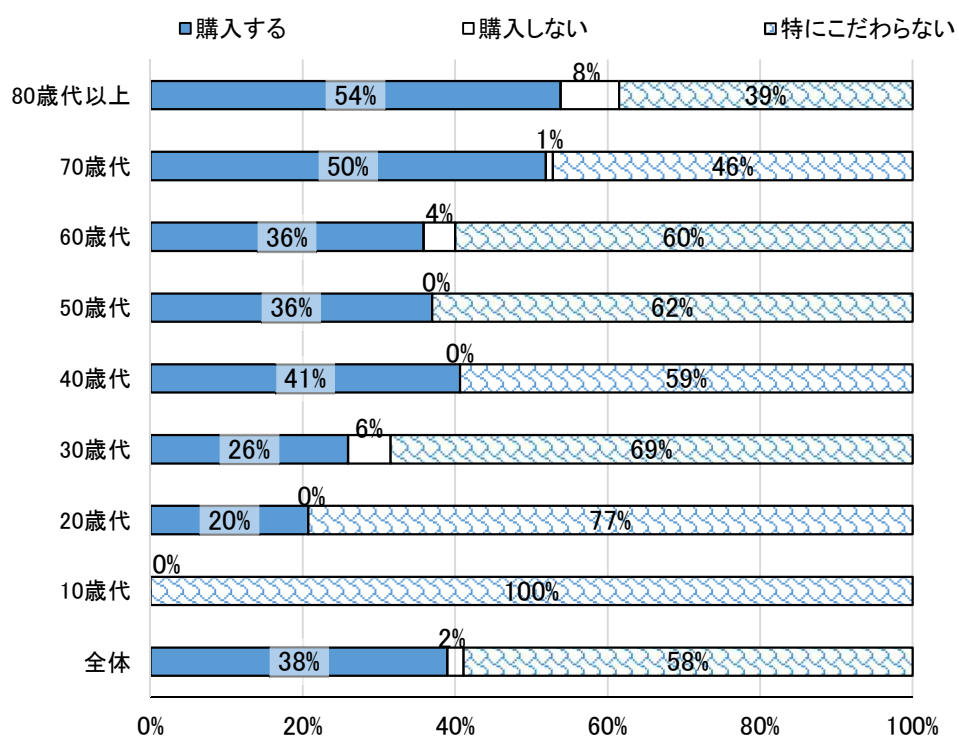


問21 あなたが買い物をするときに、丹波市の農産物を選んで購入しますか。

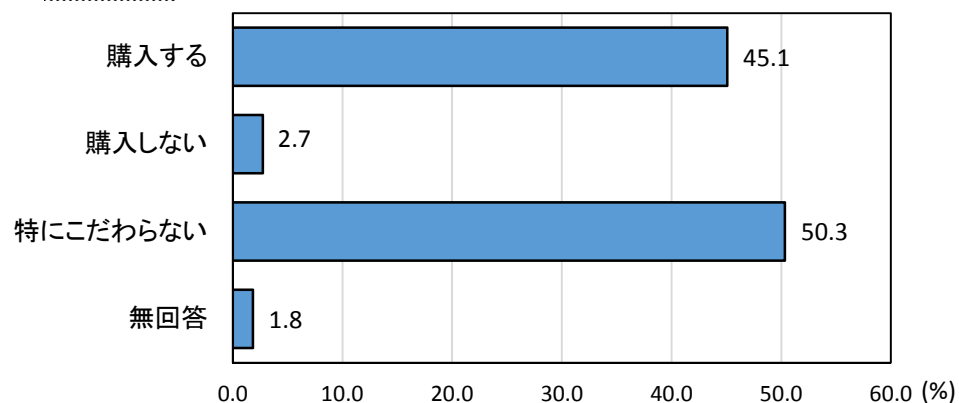
(○は1つ)



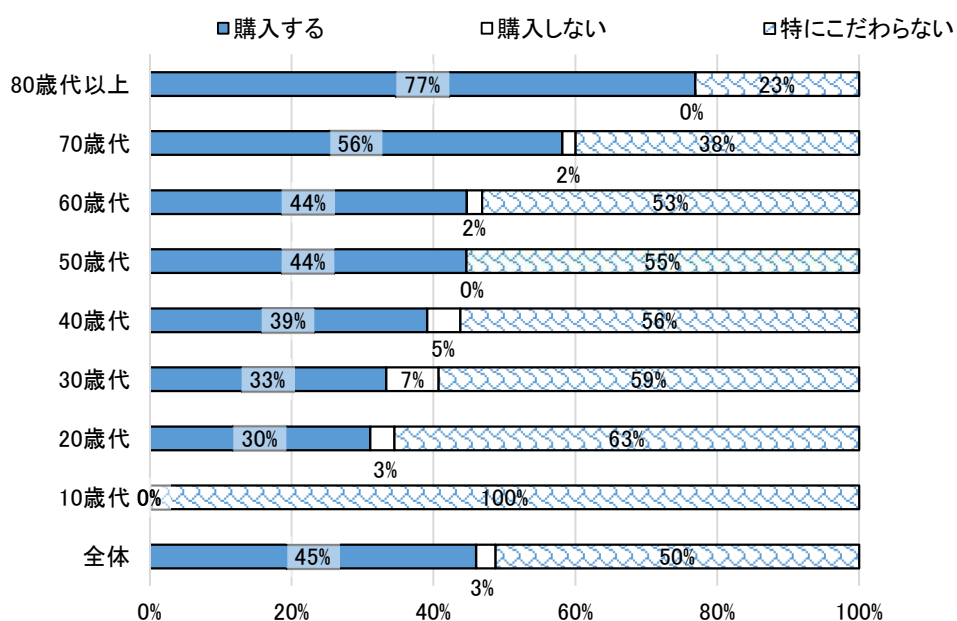
○ 問21を年齢別にみた結果



問22 あなたは、無農薬や有機栽培など、環境に配慮して作られた農産物を選んで購入しますか。(〇は1つ)



○ 問 22 を年齢別にみた結果

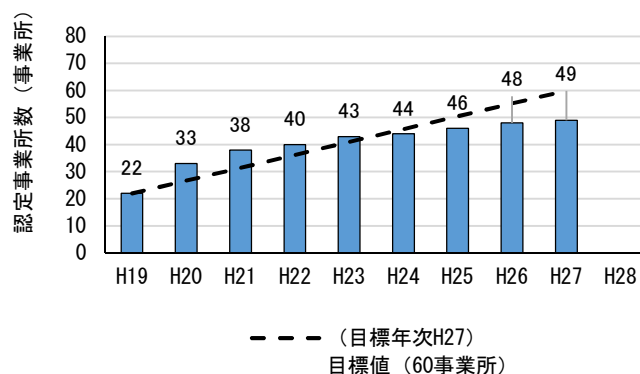


IV 地球温暖化問題について

1 概況

- 地球温暖化については、「良く知っている」が58.6%、「聞いたことがある」を合わせると95%に達している。また、年齢別にみても「良く知っている」、「聞いたことがある」を合わせた割合はどの年齢でも90%以上であった。
- 「良く知っている」と答えた内、「地球温暖化防止のための取り組みを行っている」と答える割合は73.8%となっており、温暖化の理解が深まることで行動に結びつくことを示しているといえる。
- 具体的な取り組みとしては、「節電」（91.0%）、「クールビズ、ウォームビズ」（41.8%）が大半を占めている。次いで、「太陽光や太陽熱の設備導入」（22.8%）、「自動車の相乗り、公共交通機関の利用」（13.8%）などとなっている。

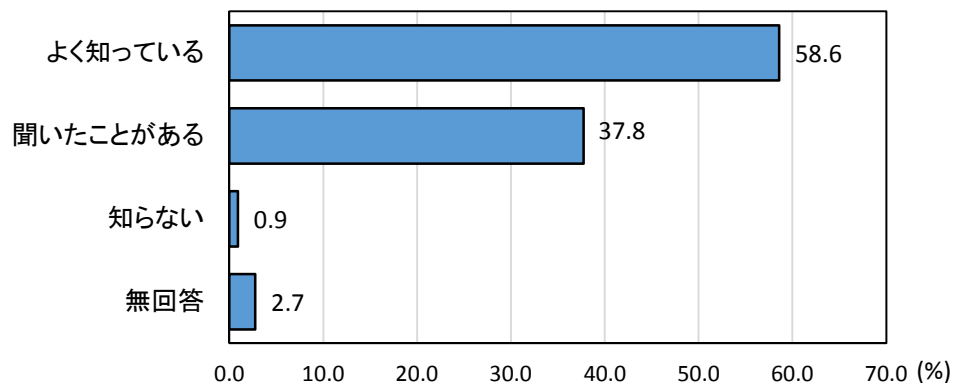
地球温暖化問題の関心の高さは、「認定事業所数」が増加傾向にあることからもうかがえる。但し、近年伸びが頭打ち傾向にあり、地球温暖化に関するより一層の普及啓発が必要である。



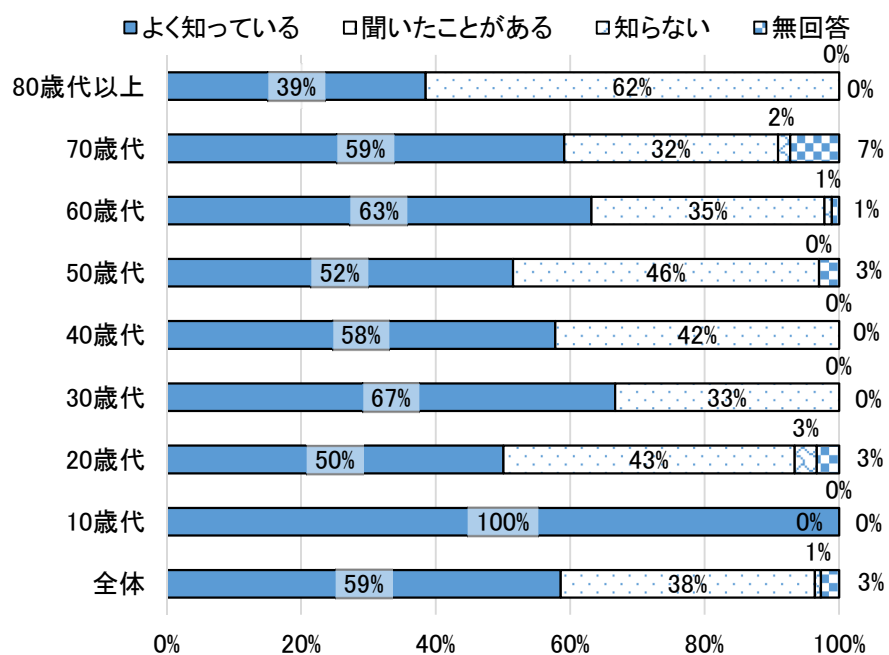
- 家庭で利用したい省エネルギー機器として、66.4%が「LED照明器具」と答え、次いで「省エネ・節水型のトイレ」（28.6%）、「太陽光発電設備」（23.1%）、「住宅の断熱施工」（23.1%）などとなっており、経済的な利得の見込める省エネ機器に関心が集まっている傾向がある。「特になし」と答える割合は、14.2%となっており、その理由として、「設備の導入に費用が掛かる」と71.0%が答えている。

2 設問別の回答状況

問23 「地球温暖化」がどのようなものか知っていますか。(〇は1つ)

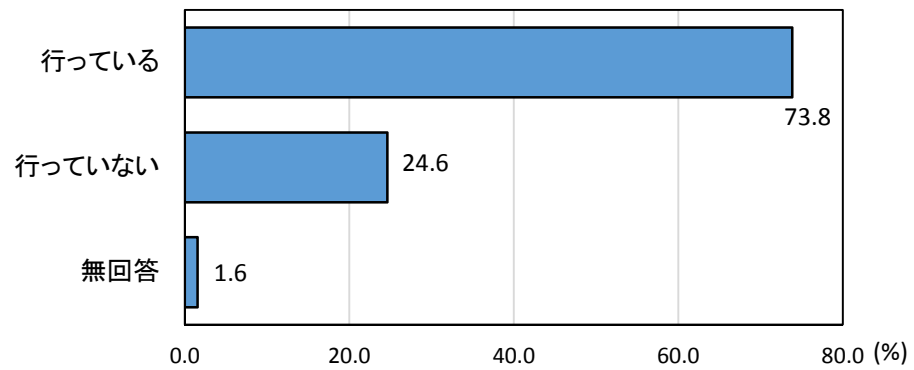


○ 問23を年代別にみた結果



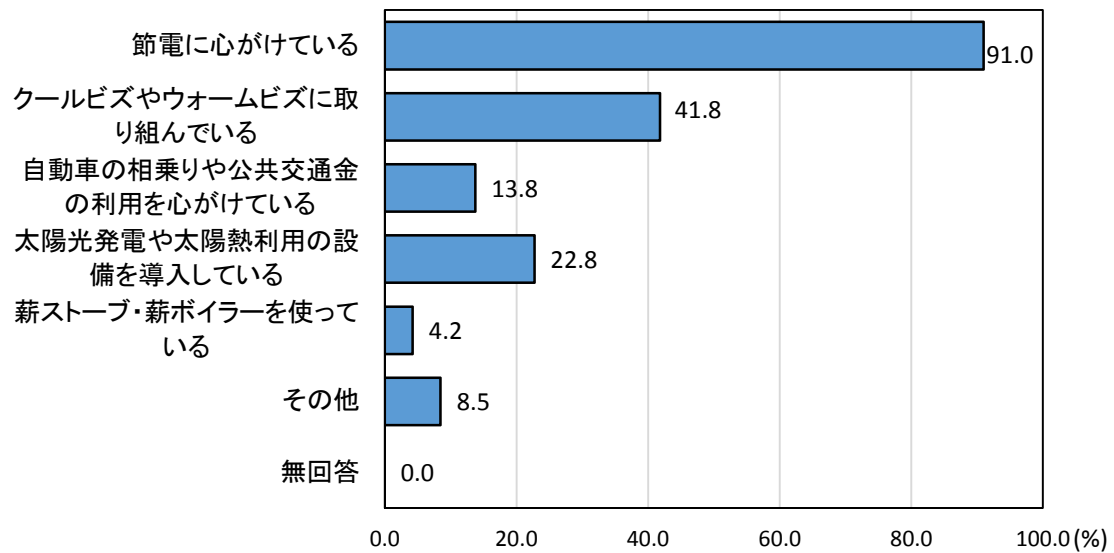
問24 問23で、「1.よく知っている」とお答えの方におたずねします。

「地球温暖化」防止のために、あなたは、何か行っていますか。(○は1つ)

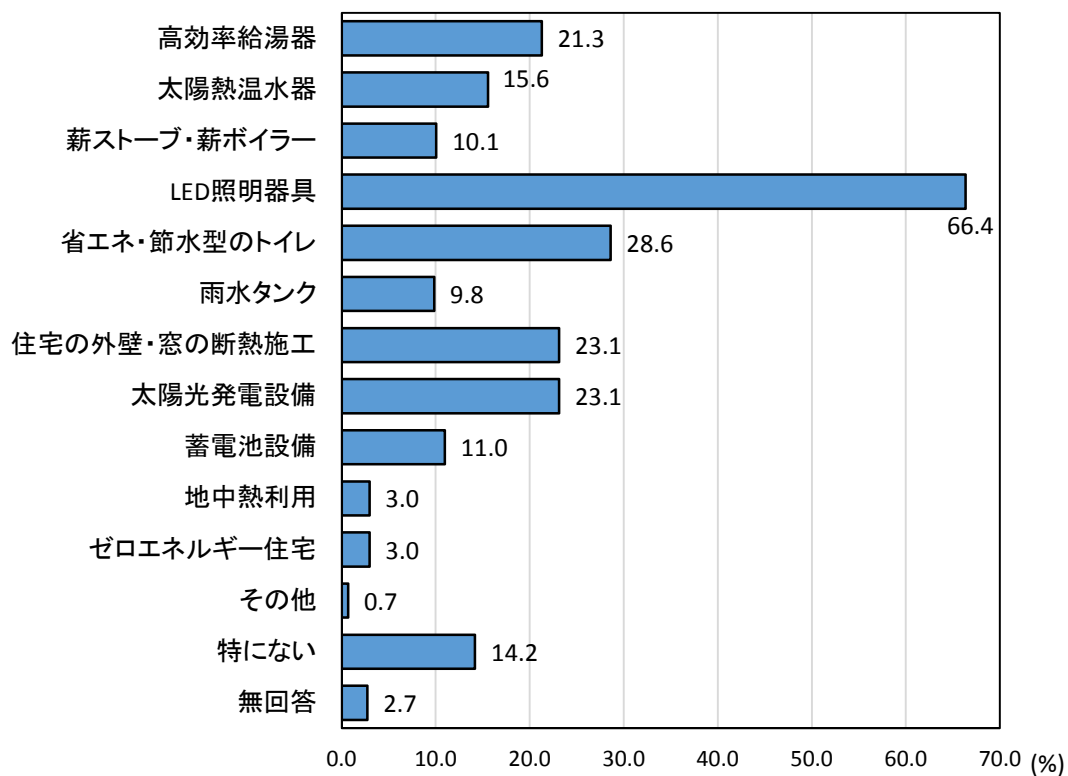


問25 問24で、「1. 行っている」とお答えの方におたずねします。

どんな行動をとっていますか。(○はいくつでも)

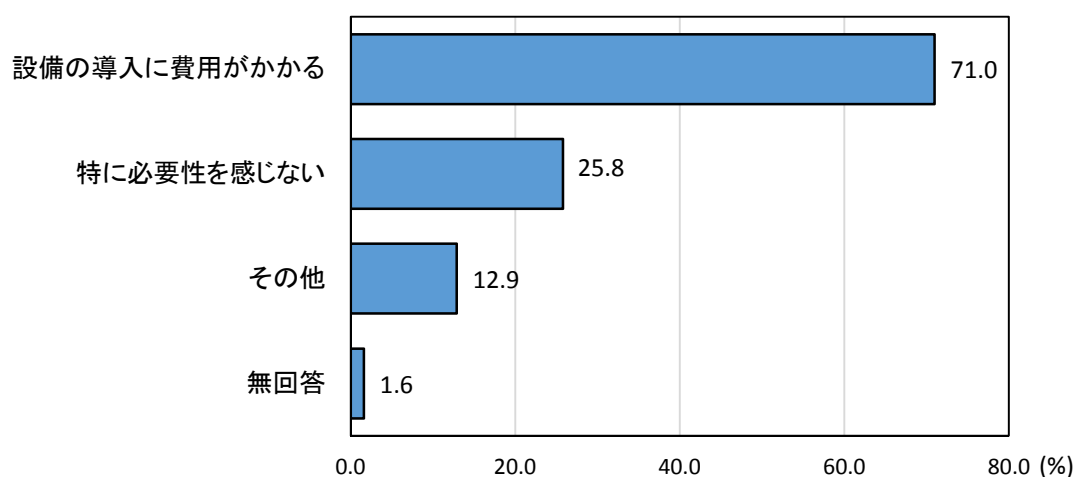


問26 ご家庭で利用したい省エネルギーの設備はありますか。(〇はいくつでも)



問27 問26で「13. 特にない」とお答えの方にお尋ねします。

その理由はなんですか。(〇はいくつでも)



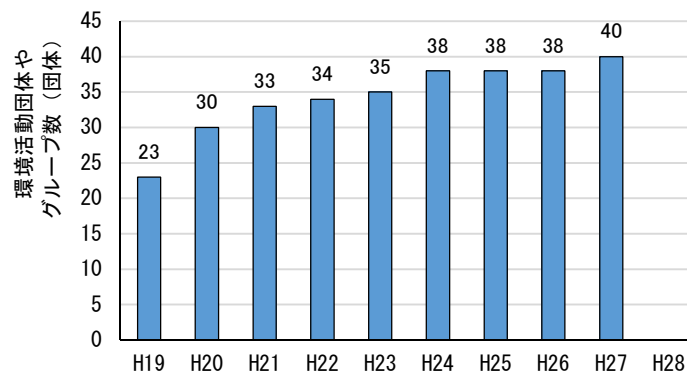
V 環境保全活動について

1 概要

- 環境をよくするための活動を行っていますか、との問いに対しては、53.8%が「活動している」と答えている。

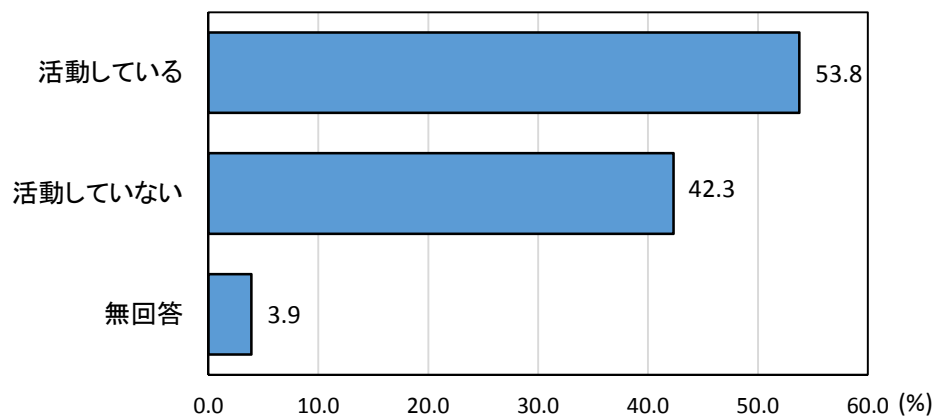
年齢別に「活動している」と答えた割合みると、50歳代から60歳代が60%以上と他の年齢より割合が高く、20歳代から30歳代は30%～40%、40歳代と70歳代から80歳代以上は50%～55%であった。

- 内訳をみると、「自治会などでのクリーン作戦やゴミ拾い」が93.2%を占めている。次いで、「道路沿いや公共施設周りでの緑化や花壇の管理」が19.1%となっている。
- 環境保全に対する高い活動状況がうかがえるが、今後、自然環境を良くする活動への関心も高めていくことが大切と思われる。
- 一方で、「活動をしていない」と答えた人のうち、40.5%は「活動を始めたいが情報がない」と回答しており、また、比較的高い割合で自然環境分野の活動への関心が示されている。これらから、普及啓発活動の重要性が伺える。
- 環境活動団体やグループの数は増加傾向にあるものの、近年頭打ちとなっている。市民の環境保全活動への意欲の高さを引き出すことのできる施策が必要である。

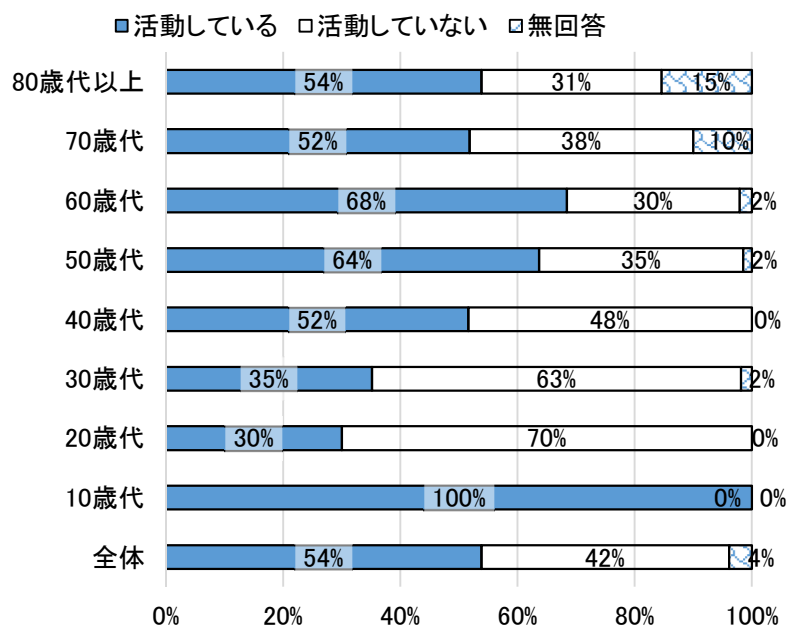


2 設問別の回答状況

問28 あなたは、環境をよくするための活動を行っていますか。あてはまるものに○をつけてください。

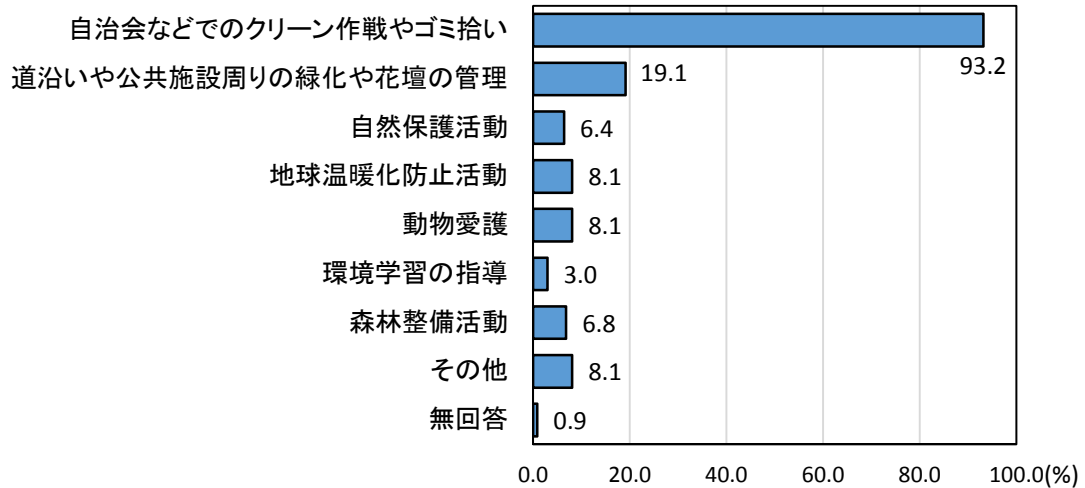


○ 問28を年齢別にみた結果



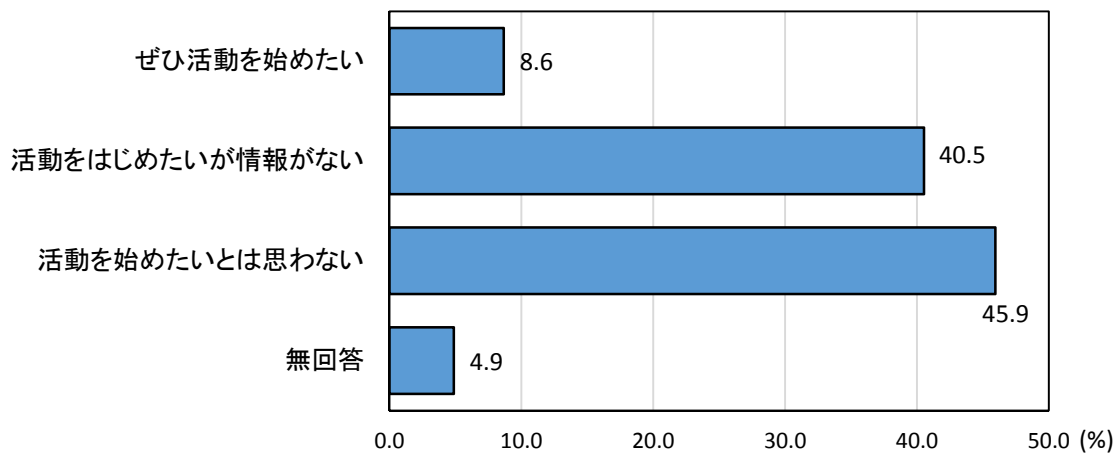
問29 問28で、「1. 活動している」とお答えの方におたずねします。

それは、どのような活動ですか。(〇はいくつでも)

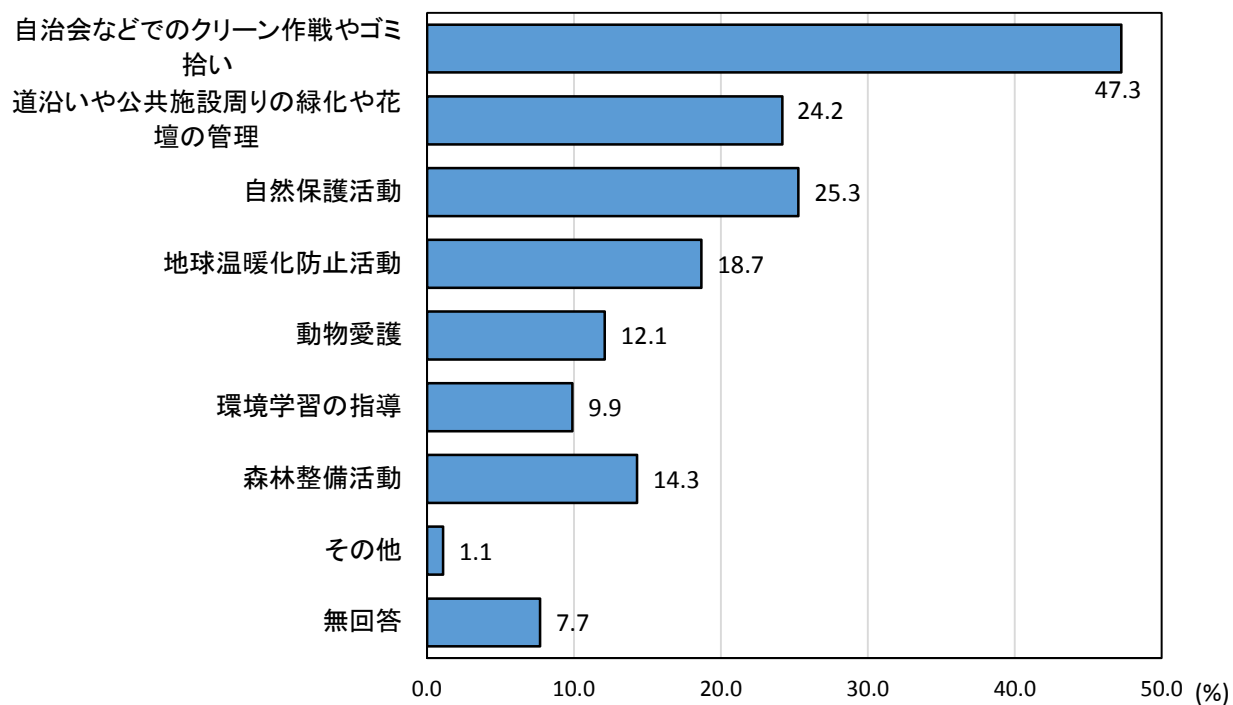


問30 問28で、「2. 活動していない」とお答えの方におたずねします。

これから活動を始めたいと思いますか。(〇は1つ)



問31 問30で「1. ぜひ活動したい」、「2. 活動したいが情報が無い」とお答えの方におたずねします。どのような活動をはじめたいですか。(〇はいくつでも)



VI 重要度—満足度の分析

- 重要度-満足度調査結果を分析した結果、「重要度が高いが満足度が低いグループ」と、「重要度も満足度も高いグループ」にわけることができた。

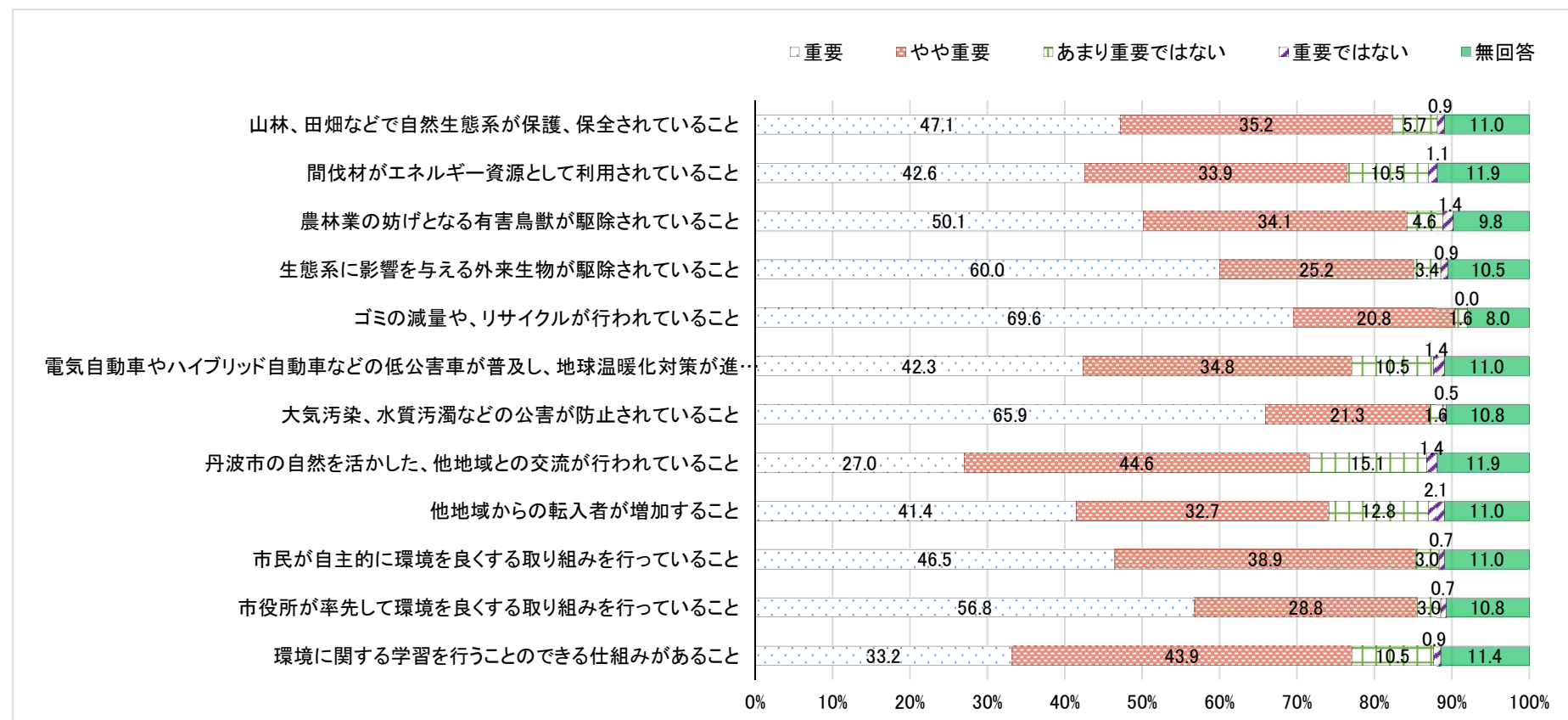
「重要度が高いが満足度が低いグループ」	重要度も満足度も高いグループ
➤ 生態系に影響を与える外来生物が駆除されていること ➤ 農林業の妨げとなる有害鳥獣が駆除されていること ➤ 他地域からの転入者が増加すること ➤ 環境に関する学習を行うことのできる仕組みがあること ➤ 市役所が率先して環境を良くする取り組みを行っていること	➤ ごみの減量や、リサイクルが行われていること ➤ 大気汚染、水質汚染などの公害が防止されていること ➤ 山林、田畑などで自然生態系が保護、保全されていること ➤ 市民が自主的に環境を良くする取り組みを行っていること ➤ 間伐材がエネルギー資源として利用されていること ➤ 電気自動車やハイブリッド自動車などの低公害車が普及し、地球温暖化対策が進んでいること ➤ 丹波市の自然環境を活かした、他地域との交流が行われていること

- 重要度も満足度も高いグループの施策は、施策の効果が伺えることから、今後も継続した取り組みが必要と考えられる。
- 重要度が高いが満足度の低いグループは、今後の施策の課題となりうる項目と考えられる。

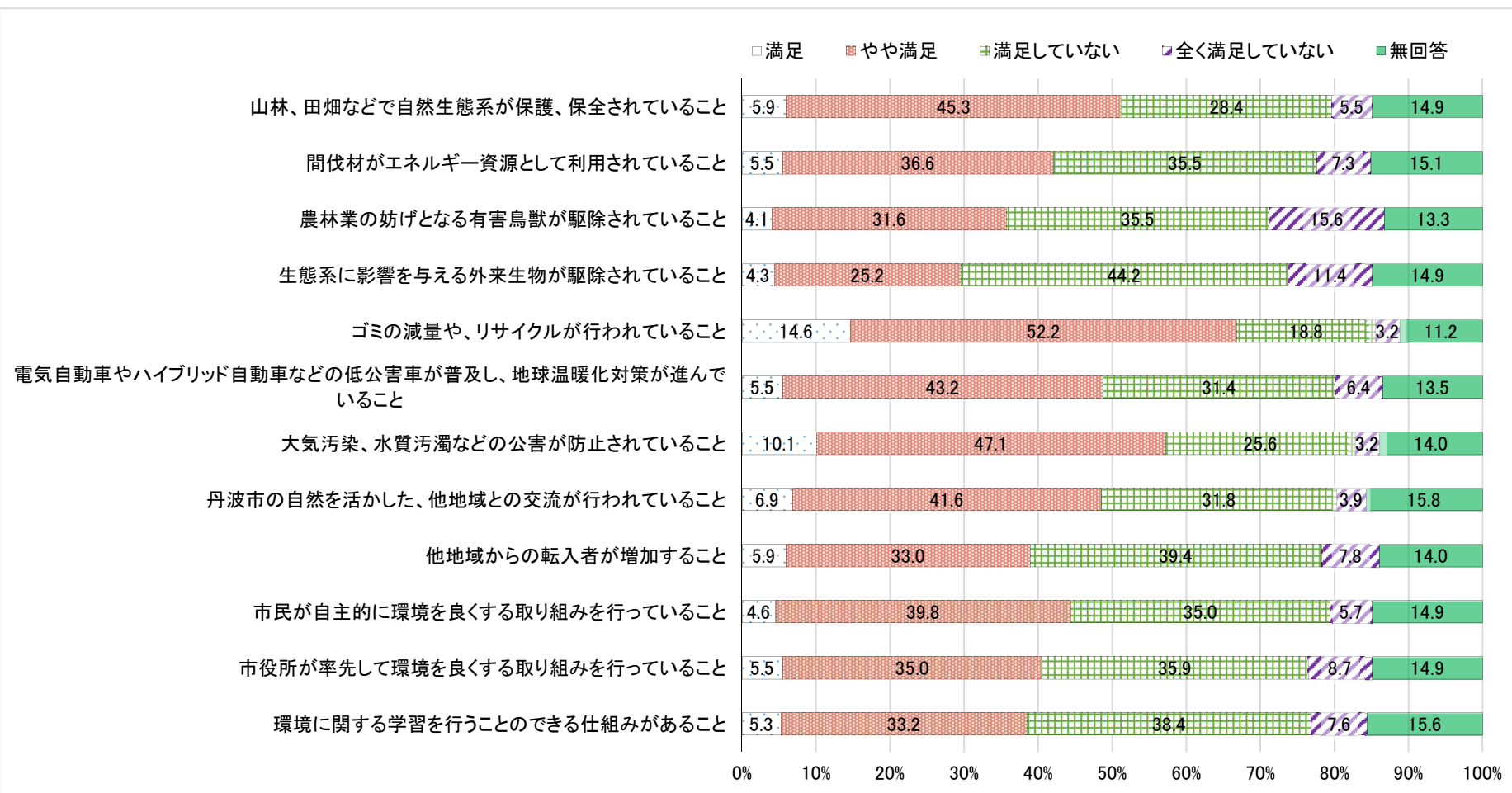
問 32 あなたにとって、次の環境項目に対する行政施策(丹波市の取組み)は、どの程度重要ですか。また、それぞれの項目の現在の状態にどの程度満足されていますか。

重要度、満足度を 4 段階評価の番号に○印をつけ、お答えください。

【重要度】



【満足度】



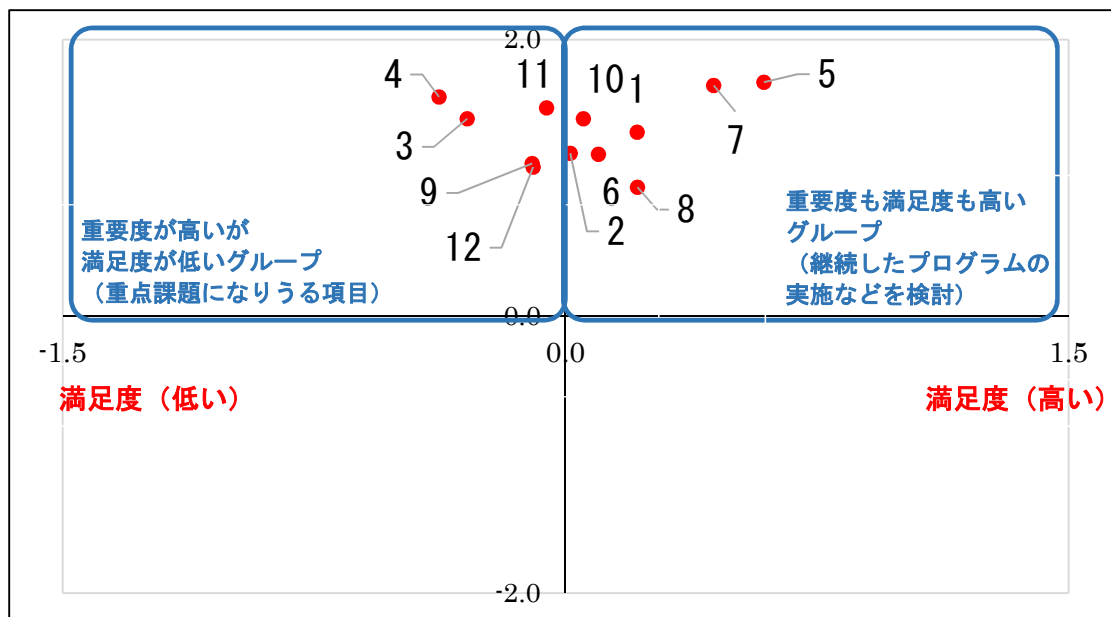
重要度-満足度のスコア平均値

重要度のスコア平均値は、重要＝2点、やや重要＝1点、あまり重要ではない＝-1点、重要ではない＝-2点として全回答を積算し、回答者数で除したもの。

同様に、満足度のスコア平均値は、満足＝2点、やや満足＝1点、満足していない＝-1点、全く満足していない＝-2点として全回答を積算し、回答者数で除したもの。

		満足度	重要度
1	山林、田畑などで自然生態系が保護、保全されていること	0.2	1.3
2	間伐材がエネルギー資源として利用されていること	0.0	1.2
3	農林業の妨げとなる有害鳥獣が駆除されていること	-0.3	1.4
4	生態系に影響を与える外来生物が駆除されていること	-0.4	1.6
5	ごみの減量や、リサイクルが行われていること	0.6	1.7
6	電気自動車やハイブリッド自動車などの低公害車が普及し、地球温暖化対策が進んでいること	0.1	1.2
7	大気汚染、水質汚染などの公害が防止されていること	0.4	1.7
8	丹波市の自然環境を活かした、他地域との交流が行われていること	0.2	0.9
9	他地域からの転入者が増加すること	-0.1	1.1
10	市民が自主的に環境を良くする取り組みを行っていること	0.1	1.4
11	市役所が率先して環境を良くする取り組みを行っていること	-0.1	1.5
12	環境に関する学習を行うことのできる仕組みがあること	-0.1	1.1

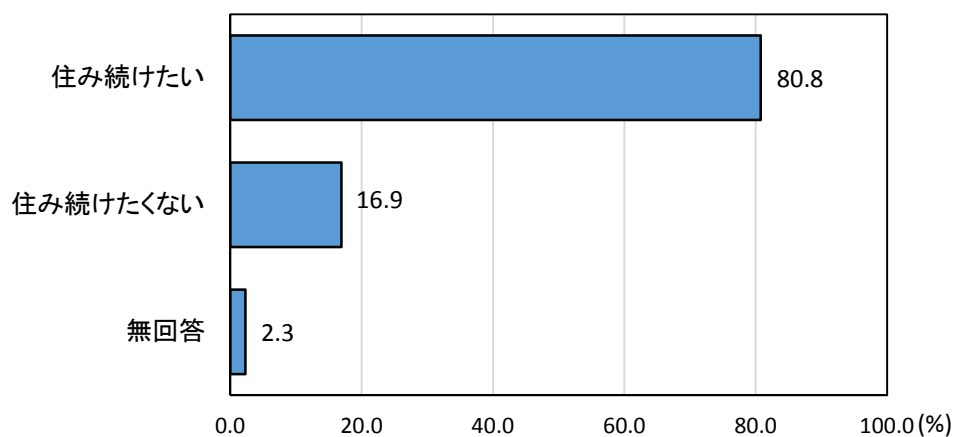
重要度（高い）



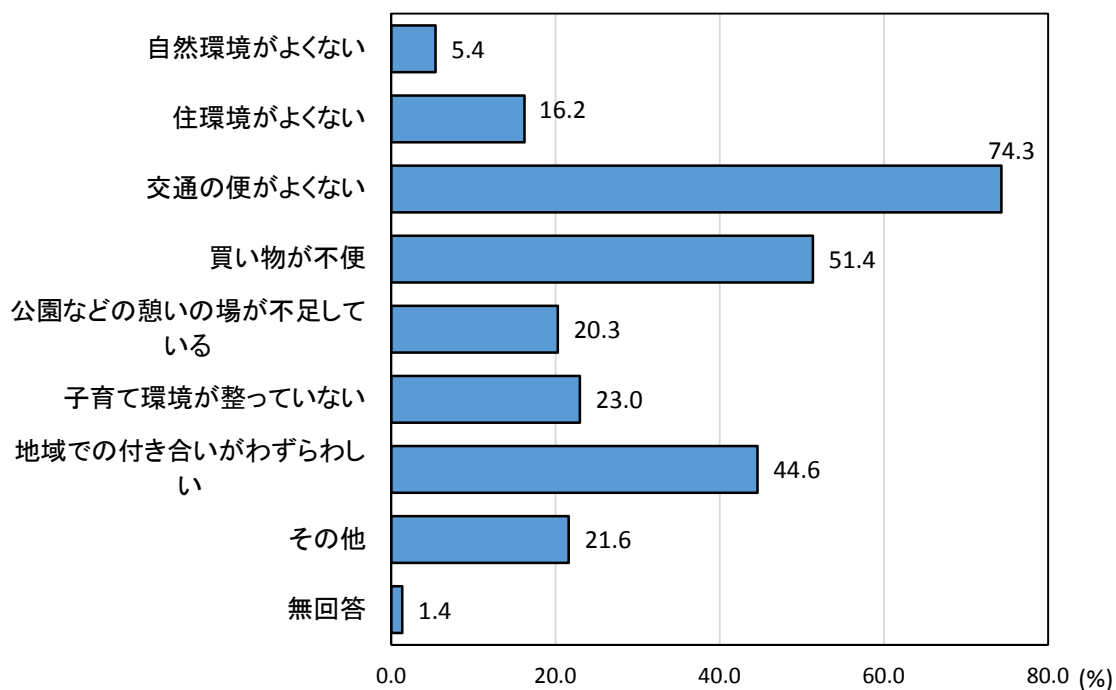
重要度（低い）

VI その他

問33 あなたは、これからも丹波市に住みたいと思いますか。(○は1つ)



問34 問33で、「2. 住みたくない」とお答えの方におたずねします。その理由は何ですか。(○はいくつでも)



VI 自由意見

市民アンケートに記載頂いた自由意見を次ページにまとめた。

「交通の利便性向上」に関する意見が 31 件、「空家・空き地、耕作放棄地、管理されていない森林について」の意見が 26 件などとなっている。

項目	意見
空家・空き地、耕作放棄地、管理されていない森林について (26件)	空家・空き地、耕作放棄地が増加しており、景観の悪化や集落の魅力低下、転出者増加につながることを懸念する。 山や田んぼが荒れてくると、大きな災害を引き起こす。 空家はきれいに整備され、公園のような憩いの場が増えていくことを望む。 人工林などの管理ができていない所有者が増えてきている。山、農地、住宅などの管理を所有者が責任を持って管理するように促していく仕組みがいるのではないか。 林野、田畑の管理を行っている人は高齢者が多い。個人では出来る範囲が限られている。昔のように山や川で遊べるような安全で人が楽しめる山や河川の整備を望む。 防災に対してしっかりとした河川や山林の整備が必要。
地域の活性化 (10件)	のどかさを残しつつも、おしゃれなカフェやお店がもっと増えて、観光客の人が楽しめる丹波市であってほしい。観光名所や特産品等が他地域の方に知れるようPRが必要。 若い人が住みたくするような自然環境とただの自然環境が良いのとは違うと思います。都会に行けばあるような店なども大事だが、田舎でしか生かせない自然をきれいにし、ゆっくりくつろげる空気のおいしい田舎を環境をよくし、自然を活かし、おいしい食を作り、都会から人を呼ぶ街であってほしい。あぜ道など残しておく方が逆に都会人にとっては面白いと思うし、田舎に来たと実感するのではないかな。 広葉樹をもっと増やし里山の風景や自然環境を学べたり体験できたりする場所を増やしていけば、もっと魅力ある市になると思います。 もっと働く場を創設(6次産業化など)し、若者が定住できる魅力あるまちづくりを、スピード感を持って進めてほしい。そうでないと、環境基本計画を策定しても何の意味もない。
若者離れへの対策 (6件)	集落周辺の空き家が増えた。若い人が丹波市を離れないで生活できる市であってほしい。まずは魅力ある住環境づくり。 また、これからの時代のキーワードとなるのは持続可能、エコロジー、オーガニック。これらを満たす環境を目指せば、それに共感する人々、特に若者の移住・定住が増えるのではないかな。
子育てするための環境作り (6件)	子育てのしやすい環境を望みます。遊具の充実した公園がない(お弁当を食べる屋根のあるところがない)ため、長時間そこで過ごすことが出来ない。
少子化対策 (5件)	人口の減少はやむを得ない状況であるが、少しずつでも人口増加につながるような施策を行い、住んでる人が満足できるように進めていただきたい。子供たちの育成のために重点的な支援を願いたい。
交通の利便性向上 (31件)	大阪に出ていくのに交通がとても不便。JRの複線化を望む。 快適に又高齢者が便利に過ごせるような交通や買い物しやすい環境にしてほしい。 デマンド型集合タクシーのさらなる充実、利便性向上を希望する。道路の安全性確保も課題。
水質、河川環境 (1件)	柏原川の水質はきれいになったが、河川管理がされておらず景観が良いとは思えない。 柏原川の上流から下流まで土砂の堆積箇所が多くある。河川の約3分の2位に土砂堆積の所もあり草木が自生しており中州となっている。 何年かにある集中豪雨による堤体決壊の要因になりかねない。
生活環境 (1件)	車検場や家庭内転的な事業をされるときは、周りの許可や承諾などはいらないのか？毎日音や声がうるさくて仕方がない。
行政運営 (22件)	行政施策において横のつながりを強化してほしい。 6町が合併してもまだまだ各町の意識が強く、一体感を感じない。各町が競争している感じがする。 河川では、地域民が指摘した所に豪雨による災害が発生している。 役所よりも地元が一番よく知っている聞く耳を持つべきである。
自然環境の管理 (19件)	水田を残してほしい。 次から次に田んぼがアパートや太陽光発電になり、悲しい。自然をもっと大切にしてほしい。子供の頃、朝目が覚めて、窓を開けたら隣の田んぼに青々と育った稲が揺れている景色が懐かしく思います。きれいで安全でどこなく覗かさがあある丹波市がいいです。 環境の整備も自然を活用しつつ、持続可能性の長い整備を取り入れるべきである。 魚道が整備された箇所では、魚、その他の生物が周年みられるようになった。今後もこのような取り組みが発展していくことを願う。
地球温暖化防止対策 (3件)	パリ協定の目標に向けた取り組みは必須だが、その目標を先取りする自治体として丹波市は名乗りを上げてほしいと思う。又、その方法、対策を募って検討推進し、全国のモデルとなるようにするべき。
有害鳥獣の拡大防止 (4件)	農林業又農作物の妨げとなる有害鳥獣が駆除され、静かな田舎暮らしができる環境がいつまでも続いてほしいと願っています。 有害鳥獣、外来生物を駆除＝殺すことは人間の勝手な都合で、動物には何の罪もありません、里山を整備し、住民の理解協力を得、共存できる方法を検討していただきたい。都合が悪いから殺すは安易な考えです!
野焼き (7件)	野焼き草焼き時間帯を考えてほしい。悪臭がひどくて困っている。パトロールを多くしてほしい。指定ゴミ袋が高いことと関係するのではないかな。
有害鳥獣の拡大防止 (5件)	農作業でブドウやイチジク等、アライグマなどにあらされることが多い。 野生動物が住宅地に出てくることなく安心して生活(クマ・鹿・イノシシなど)できるようになってほしい。 このために、山や森の手入れ、道路付近の雑草や山から垂れ下がったツタの除去、イノシシ、鹿などの住みやすい山林への整備が必要である。
再生可能エネルギーの利用 (1件)	市内の森林の木材を有効に活用するために、バイオマス発電所を設置する。発生する熱エネルギーは温水に変え、スポーツ施設のプールや温水などに活用する。同時に市内の森林を整備し、クヌギや樫、ナラなどの燃料として利用しやすい落葉林や丹波の特産となりうる栗やイチジク、柿などの果実の植林などに積極的に補助を行い、杉(やヒノキ)を減らし、里山整備を計画的に行い、獣害対策や防災林としての機能を高め、資源としての活用ができるように取り組んでいく。さらに小動物が生息でき、子供たちが安心して遊べる環境づくりに力を入れる。 太陽光発電設備はいいと思いますが、住宅近くでの設置は考えていただきたい。
身近な環境 (5件)	ホテルやメダカが河辺に戻ってきたように思います。一人一人が自然に優しくゴミを出したり、汚したりしないよう意識して美しい街になるよう望みます。また、子供たちが生き物に気軽に触れることができ、環境保全に興味関心を持つようになればいいと思う。 丹波市に入るとあちこちで桜の花(並木)がとてもきれいでいいなあと思います、いつまでも人々の目を楽しませてほしいです。 セイタカアワダチソウの繁殖も大になり、自然からの公害も多く原因不明の病気になる人もあると思います。アワダチソウの処分を今のうちにするべき。 加古川の流域にて生活していますが鵜が異常繁殖し、川魚が全くなりなくなりました。この対策は地域、県は何をしているのでしょうか。20～30年前の丹波を取り戻してください。
地域の課題と考えることについて (3件)	古い考えの方が多いことも問題だが、地域活動などに協力しない孤立住民も増えてきている。市民を増やすことも大切かもしれないが、まず孤立している住民に対しての対応策について考えていく必要がある。
廃棄物処理 (8件)	道路やその周辺にゴミのポイ捨てが多くて困っている。 外国人技術研修生(と思う)が、ゴミを燃やしたり、生活ゴミが入った袋を橋から川へ投捨てたりがある。丹波市では条例を制定するなどして、外国人研修生を受け入れる企業は、その人達に対し、環境保全やマナー教育を実施するよう義務付けるべきである。 ごみ袋料金が高いので安くしてほしい。 分別指導をもっと詳しく。チラシのみにするなら市民の立場にたった興味 that 得られるものに。分別が前より難しく感じています。